大正三年十二月七日發行 大正三年十二月四日印刷納本
明治三十七年五月七日第三種郵便物認可（毎月一回一日發行）

女子青年界

第拾壹卷第拾壹號

要目

女子青年會第十一卷第十一號

目次

YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KAI)

Volume XI December, 1914 Number 12.

生徒募集

一學年六十名、上級若干名。
音樂部及英語專修科若干名。

○普通部
○專門部

願書受付　三月廿九日限
入學試驗　四月一日

神戸市山本通四丁目

文部省指定認可　私立神戸女學院

基督教女子　青葉寮

仙臺市に遊學する女子學生等の爲に今回同市良覺院町四十番地に開設す
入寮志望者若くは規則書入用の方は左名へ申込まれたし

寮長　ランソン
寮母　及川千代

M. SAITO-PHARMACY has removed o more convenient & commodious premises at
9, Kojimachi Sanchome, Tokyo.
Tele hone (Bancho) No. 608.

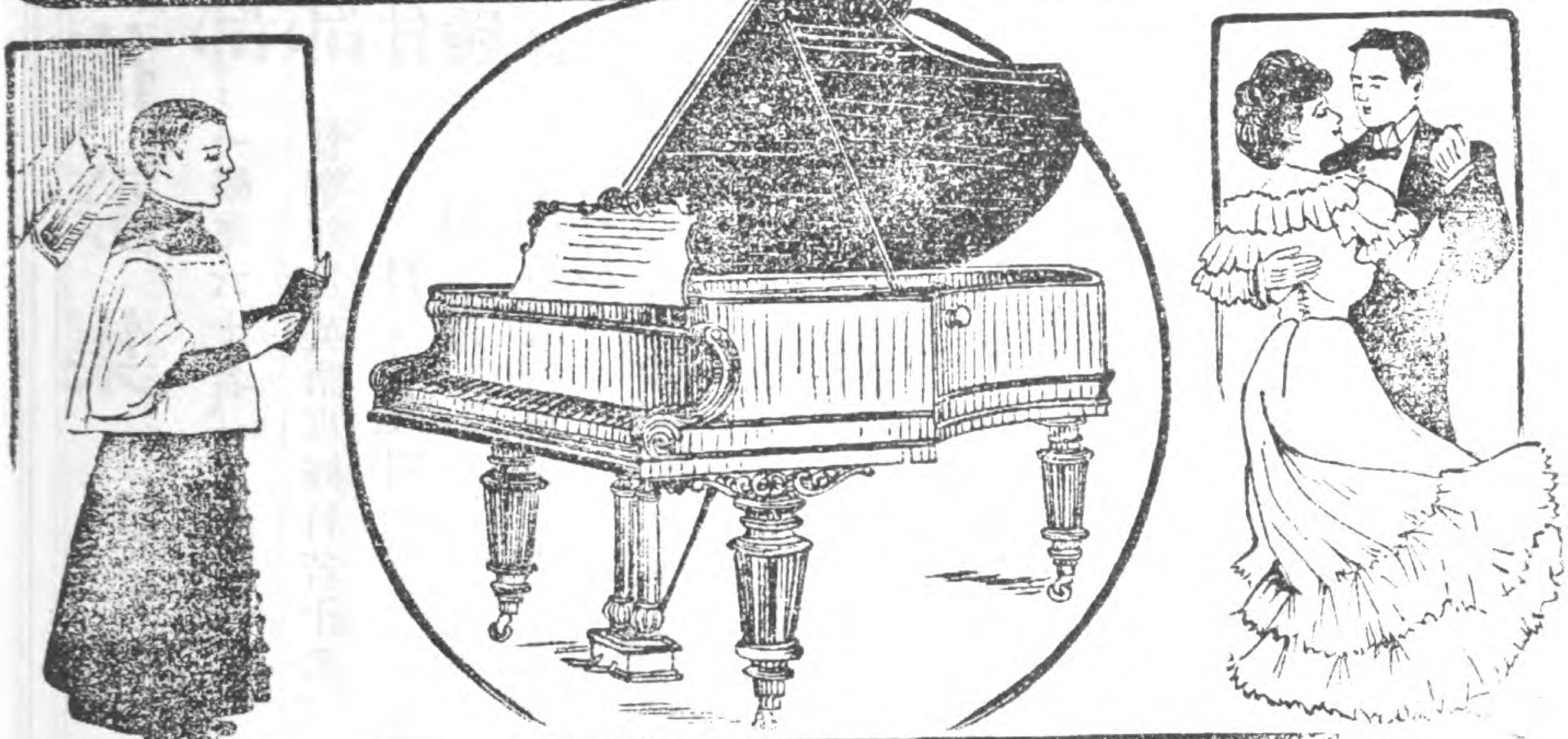
今般新築落成仕り候に付き左記の處に移轉開局仕候藥局內の設備を完全に致し益々純良藥品發賣に勉勵仕候尚本邦製並に外國製衞生化粧料も藥業品目中に相加へ候間倍舊之御引立を奉懇願候

東京麴町區麴町三丁目九番地

齋藤滿平藥局

電話番號番町六〇八
振替貯金口座東京壹〇四壹七
電報略號　文末ニ(〇サ)

ピアノ・オルガン



營業種目

一、松本自働ピアノ　六百五拾圓

一、松本ピアノ　（自二百貳拾五圓 五百五拾圓迄）

一、松本オルガン　（拾八圓以上 貳百貳拾圓迄）

一、獨逸オットピアノ會社一手販賣店

一、獨逸ホーマイアピアノ會社一手販賣店

一、獨逸イバハ、ピアノ會社一手販賣店

一、佛國ウルマン、ピアノ會社一手販賣店

一、獨逸イルムラ、ピアノ會社一手販賣店

一、ハモニカ（獨乙ホーナー會社特製）（貳十五錢以上 貳圓五十錢迄）

手風琴（同上）（三圓八十錢以上 七圓迄）

ヴアヰオリン（内外各種）（三圓五十錢以上 百五十圓迄）

英、米、獨版樂書、廿錢樂譜

唯一唱歌雜誌　月刊樂譜（一部 五錢五厘　半ケ年 卅錢　一ケ年 五十五錢）

東京銀座四丁目　**松本樂器合資會社**　振替東京一三五〇五

目錄進呈

AMERICAN BIBLE SOCIETY
TELEGRAPHIC ADDRESS "BIBLES YOKOHAMA

聖書

クリスマスの御贈物には

■インデアペーパー刷聖書（上等紙）

□六號活字 小形新舊約全書 特製一枚折皮金縁 二圓五十錢

□六活字 引照付新約全書詩篇付 同上 一圓六十錢

□六號活字 引照付新約全書 同上 一圓三十五錢

□六號活字 小形新約全書詩篇付 同上 一圓二十錢

■聖書は印刷活字の大小、製本の上下などによつて一冊五錢より種々御座います

■英語新約全書は五錢より、舊新約全書は三十錢より、其他各外國語聖書も種々あります

■クリスマスの御贈物としていろ〳〵適當なものがあります定價表を御覧下さい

■定價表は御申越次第進呈

各國語聖書發賣所
横濱市山下町五十三番

米國聖書會社

振替貯金口座 東京 壹八四壹〇番

院長診察（月、水、木、金、午前／入院診斷後應需）

松田、林、峰間、三副長は目下當院に在勤

東洋内科醫院

電話本局 八八八（病院用） 八九八（私宅用）

東京神田區駿河臺鈴木町二
御茶水橋附近

院長 醫學士 高田畊安

神奈川縣高座郡茅ヶ崎町相海濱
從停車場半里

南湖院

電話 チガサキ 二番

河野、高橋、兩副長は目下當院に在勤

院長診察、土曜日午後、入院、診後應需

植村正久氏序
木岡甲子男氏著

信仰と實驗

定價參拾錢郵稅四錢
菊判半截二一一頁
警醒社發行

○●●●●護教批評　袖珍二百餘頁の小冊子だが、全篇悉く生た信仰の「アカシ」である。然も日本に於ける基督教の産んだ、生命の光である。必ずや何人の心にも深い靈動を與へるだらう。吾人は此種の著書を大いに歡迎する者、今此一書を得たるを喜ぶと共に、廣く江湖に薦むるを躊躇しない。

○●●●●友人雜話　同僚のA氏が食堂で斯く語つた。明治火災のI氏が一日自分の寓居を訪ふたが、種々雜談の末先夜夢にクリストを見たと不思議さうに云た。I氏の郷里には有名な祇園祭がある、夫れと關聯したものと見え、大勢の中に身の丈け六尺餘顏は白く輝き、肥滿した偉人が悠々と歩んで來る、其姿は何とも形容の出來ぬ程立派であつたが、誰いふとなくあれがクリストだ／＼といふた。やがて碑の側で說教が始まつた、I氏は面の當りクリストを拜して教訓を請ふた。クリストは『水あれば池あり、池あれば水あり、之れをよく考へよ』と教へられたが南柯の一夢。醒ても尚あり／＼と其姿其語が腦裡に殘つて居る。何故斯やうな夢を見たかといふに、先日友人に勸められて『信仰と實驗』てふ小冊子を買て耽讀したからであらうとI氏が云つた。A氏は曰く其著者は余の同僚である、それは鶯色の表紙で小形の冊子であつたらう』と。I氏は『さうだ』との答。不思議な事もあるものだとA氏が予に告げられた。此水がI氏の活ける生命の水。其池が心眼を洗ふ「シロアム」となれば幸いだ。I氏は基督教に接したのは之が初めてなのである。

○著者へ直接御注文の方は郵稅不要十部以上前金貳拾五錢に割引可致候　求道者向又はクリスマス贈物等に適當かと存候　目下第三版印刷中　クリスマスには間に合せ可申候　宛所は東京市牛込區市谷藥王寺町八四木岡甲子男。

女子青年界　第十一巻第十一號（大正三年十二月七日發行）

會説

天使の歌

河井道子

二千年以前ユダヤの野原に星ずく夜天使が歌ひし「神には榮光、地には平和、人には恩澤あれ」との彼の頌詠が貴賤貧富の差別なく都に鄙におしなべて讃美さるゝ降誕祭が又目前に迫つて參りました。

さて今年のクリスマスには私共衷心から此を歌ふことが出來ませうか。日本は靑島にての大勝利で祝へや囃せで大景氣でありましても歐洲全般の現在は苦戰惡闘愈々峻刻ならんとするに際し嚴冬の加ふるありて死傷の數の增加を來すのみであります。

外紙の或漫畫に「報知すべきなし」と題して破壞されたる家屋より炎々たる猛火雲を舐め住民の死屍街衢に散横し破損の車輪と馬とは所を異にして倒れ立燃ゆる焰の外、寂として聲せざる物凄き慘狀を畫ましたのがありました。

其畫題の寓意は住民死に絶へ慘狀を語る者なく、加之戰爭なればかゝる慘狀は普通にして報知するに値する新嶄なるものなしとの暗示でございます。如斯現場の數多あるに我々は呑氣に「地に平安人には恩澤」などと謳歌されましようか。

併し靜思いたしますと我等基督は時局の如何に拘

らず所謂血雨醒風の最中に於ても寂寞荒涼の中に在りても天使と共に讃美すべきものであります、一體人間は平時にありては精神に油斷が起り、波瀾の時に靈の覺醒が來りがちのもので、困難の日に何國でも其國民の宗敎心が勃興いたします。其故に現今歐洲交戰國は皆宗敎復興時機で英國に於ては市の大敎會堂に於ける每日の禮拜は充滿し、獨逸では全國が祈禱と變じ、佛國は彼の有名なる「單純生活」の著者ワグナー牧師をして「我等佛人は此火の洗禮に依りて靈の救を受けつゝあり」と云はしめて居ります。米國大統領ウイルソン氏は同國民に訴へて十月第一の日曜日を平和の爲め祈禱日とされた處が、全國新舊敎信徒、ユダヤ人、異邦人の區別なく、皆眞面目なる宗敎會合を開き、單に平和の疾く來らんを祈りしのみでなく、各自己が罪を懺悔し、又戰爭の如き惡事を惹起さしめし世界の罪とを懺悔して、平和を地上に成立せしめ得る精神と心情とを與へ給へとの熱禱を捧げたそうで厶います。我等女子青年會員は十一月中、祈禱週を守りて確に米國人と同様の經驗をいたしました。然も每日かゝる祈禱を捧げねばなりません、此等より推測るに、交戰國に於ても勝を得させ給へとか敵を亡ぼし給へとかの祈禱は小數にして、一般は罪を悔いた祈りに相違ないと存じます。即ちキリストを捨てる此世の勢權を愛し、福音を侮りて哲學科學を崇拜し、眞理を輕視して唯物主義を唱へ神に信賴せずして武力智能を重じ、奉仕を忘れて私慾を恣にした結果なる、此戰爭の根罪を神に詫びて居る者が數多でありましよう。我等は地上に平安と云ふまへに「神には榮光あれ」と云ふ頌詠を先にしなくては眞個の平和や恩澤が地上人類に降るものではありません。常にこれを忘れるがために又神よりの平和にあらで地より湧く平和を目當にしてゐれば砂上の家の如き平和しか得られないのであります。

キリストは今宵敵に捕へられ、翌日は十字架上の苦難を受けらるゝ間際に弟子達に最後の慰籍や敎訓

を與へられました其中に「我平安を汝等に遺す、我平安を汝等に予ふ、我予ふる所は世の予ふる所の如きに非らず」云々と申されました、實に是であります。世の予ふるものと異なる平和、パウロの所謂「神より出でゝ人の凡の思ふ所に過る平安」は地下より湧き來るものではなくて、天より雨露の如くに降り來るものであります。かのピリピ市牢獄にて肉裂け鮮血滴たる上に、桎にて身動きもならぬ二人の信者が苦痛に夢も結びえぬまゝに夜半祈禱をなして神を讃美したとありますが彼等は「神には榮光、地には平和、人には恩澤あれ」と天使と聲を合せて歌つたのであります。かゝる逆境にて讃頌の出來る此恩惠は天來のものでなくて何處から參りませう。キリスト此世に降誕り給はざりせば抑讃美と申すものが起つたでありませうか。世界の宗教中に歌をうたふ宗敎は基督教外にはありませんと申ます。獄中の二人はキリストの心を以て心とせしより、牢屋をも神の殿と變化せしめ地震にて倉皇る囚人や獄吏を制し、終に吏と其家族一同を信者とならしめたる其力は、地よりも、肉よりも、學術よりも來るものではありません。キリスト生れ給はざりせばかゝる奇積は起り得ませんでした。世界にある凡ての改善的進化はキリストの降り給ひし故に出來たのである事を信者は常に忘れてはなりません。然すれば戰時なるが故に尙更基督の御降誕を感謝して、提灯行列的の空騒ぎを全廢し、謹んで神を讃美し、地上の平和が正義の上に建立されん事と、人類が恩惠に愈々浴せんことを求むるが信徒の致すべき事と信じます。

斯く申しますが、我々の祈を實現させますには、其に對する凡ての障害物を除去せねばなりません。假令ば世界の平和を唱へても獨逸人が憎いの、米國人が生意氣の、支那人が邪魔のとか、是では日本が損になる、あれでは儲ける、恁すると昇進する、增俸だなどが標準で、正義とか敬神とかの念なく邪念邪慾や憎惡憤怨の根底に潜在して居る限りは平和を祈つたとて來るものではありません。個人に致して

も同樣であります。他と和睦せんには信任や友情を增進せしむるに努力せねば祈つたとて仲好くなるものではありません。某女學校の生徒間に軋轢が生じて甲乙と別れた黨派が出來ました、双方共に宗教心は燃えて居ますので別々の祈禱會や協議會をなし、双方共に淚を流して、かゝる黨派の生じた事を悲しみて訴へ一日も早く和解せしめ給へと祈るのでありますが、扨て會が散じて後に兩派の者が御互に出逢ふ事でもあると直に甲乙共々妙な顏付をなし成る可く遠からんと勉め、級に於ても敵視の態度を保ち、用事ありても口きかぬ次第で、何日迄經ても和解ができません。彼等は已等の愚なる事に氣付かずして只、神樣は何故に我等の熱禱を納け給はぬかと不平苦情を竝べたそうであります。私共も反省してみますと、是と同樣のことをして居るかと存じます。「汝もし禮物を携へて壇に往たる時かしこにて兄弟に恨るゝ事あるを懷起さば、まづ往て汝の兄弟と和き、後きたりて爾の禮物を獻げよ」とは行を兼ざる信仰の死ぬることを敎へられた、主エスの御言葉でムいます。

戰爭の裏には又美しき事が顯はれて參ります、これ等が平和を成立せしめる基礎で御座います。即ち同情で相互に救護せんといたすことで御座います。日本でも赤十字社より外國に救護班を派遣し又歐洲の兵士や遺族に衣類を贈りますし、露國の赤十字社は敵國の獨逸赤十字社に繃帶や藥品を贈りますし、英國では塞國に良き病院が一つもないので彼國の病院に必要品を贈與するなど逐一揭載の出來ぬ程美擧が各國に御座います。爰に最も世界の注意を惹起せしめます美擧は米國合衆國の子供等より歐洲交戰國の子供等へとて贈ります「クリスマス船」で御座います。何しろ死傷の損害は別として金錢上から申ましても歐洲交戰國一日の費用が壹千萬磅（萬億萬圓）とかですゆゑに、クリスマスを賑はす如きは到底出來得る沙汰ではありません。米國では幸に中立國ゆゑ今回の戰爭により直接の影響を免れてゐます。そ

こで感謝のしるし、加之平和の媒介者として同國の子供達はクリスマスの贈物を船に滿載して英、白、佛、獨、墺、露諸國の小供達に贈與する計畫であります、船は星と線の國旗に白旗を添へて諸國へ御使を致すそうであります。米國では小供の各會、各團體が皆我を忘れて大活動である由をきゝますにつれ、如斯友情を皷吹する國民の美德を賞讃ずには居られません。彼等は祈と行とを兼ねた好例を表はして居ります。

抑も獨逸程、兒童敎育に注意した國は無いと申ます、幼稚園なるものは同國の產出であります。クリスマス樹の由來も同國が元祖で厶います。獨逸ほど玩具のよく出來る國はありません。獨逸の兒童文學は世界の小供の讀物になつて居ります。小供日、小供公園、一々皆此國の賜物であります。今米國の小供達は報恩のしるしに獨逸の子供にクリスマスを祝ひやると申すは王の冠よりも貴重く、城を取るよりも大勝利で如何なる媾和說よりも有效と信じます。

諸姉は如何なる贈物を誰になさる御計畫でありますか。自分の買物したつもりをレプタとして寄附するは、却て神を乞食視したことになります。姉妹方の中に若し人を恨み妬むことあらば是等を放棄られなくては幾何ばかり高貴な禮物を捧げたとて神は受納ては下さりますまい。一友人が左の如き美しき事を申ました。

「來らんとするクリスマスには眞のクリスマスをしたいと思ふてゐます、自分の切に愛する者にのみ多くの贈物をして、慰めなどの少き人々を其儘にして置くは利己主義と氣付きました。自分の愛する人に贈物するは差上るにあらで贈る事を許可して貰ふので畢竟は己の滿足喜悅に過ぎません。誰が嬉しいかと云へば送つた本人が嬉しいのです、其故に私は出來るだけ氣の毒な方、慰安のなき方にも盡したいものと思ひます」

姉妹方よ、願くは碎けたる悔し靈を神に供物とし、愛のしるしを人々に分かち天使と共にクリスマスの

讃頌を赤誠を以て歌はれ、今年は新に主の御降誕につき感謝をせられ、基督御統御の御代益々隆盛ならんため祈と實行とを努められんことを切望いたし申上ます次第で御座います。

思ふ所に過ぐる平安

マクドナルド

私共は、今度の歐洲大亂が起る以前に於ては、平和といふものの本當の意味を了解して居るかの如く心得て居たのでありまして、私共は國際上に於ても個人に取つても、平和の境遇に在るものと信じて居たので御座います。しかし、今日の世界の狀態から推測して見ますならば、世界の有樣は眞の平和の狀態でなく、過去に於て表面から見ると平和であるやうに見えましたのも、其裏面を窺へば、其平和は即ち武裝的平和でありまして、唯戰爭を目の前に實現こそ致して居りませんでしたけれども、すべて戰爭の仕度ばかりであつたといふ事は誰にも能く分る事であると思ひます。考へて見れば、斯の如く武裝によつて平和を得やうとした事は、本當に大間違で御座いました。寧ろ何故に獨逸でも墺利亞でも英國でも佛國でも白耳義でも、今日まで互に戰爭を起しませんでしたかが疑はれる位で御座います。そして、また何故に今日に於て現に私共の見るやうな戰爭が起りましたかといふ事も誰れでも能く了解する事が出來ると思ふので御座います。

そこで、私共の中では現今歐洲全體に渉れる此の

悲しむべき有様を見て、こんな事では平和的國際關係といふやうな事は到底見込のない事の様に思ふ人もあるかも知れません。けれども私の考では、今日迄考られて居た平和的國際關係の基礎が誤られて居たといふ事を悔悟する時機に到達した事を悟らねばならぬと信ずるので御座います。即ち私共は今日迄眞の平和＝「思ふ所に過ぐる平和」（ピリピ四ノ七）を土臺に致しまして國際關係を立てなかつたことの間違と、今迄の所謂平和は武裝的平和であつて眞の平和でなく、却てこれが戰爭を惹起する誘因となつたものであることを了得する筈であらうと思ふので御座います。

若し、基督教の見地を離れてのことならば、現今の狀態を見て、こんな有様では國民と國民との間に眞の平和を起す事は出來まいといふやうに思ひましても或は止むを得ない次第であるかとも存ぜられますが、私共基督信者の立場から考て見ますならば、個人と個人との關係に於ても、國民と國民との關係に於ても、其「思ふ所に過ぐる平和」を追求するに熱中する筈であると存じます、如何ならば此「思ふ所に過ぐる平和」は即ち二千年前に御誕生なさいました基督＝聖書に記してある平和の君なる基督の教訓及び其人格と其精神に從つて生活を致すによつて充分に經驗し、また玩味され得べきものであるからで御座います。されば、私共は世界大亂の時に於ける今年の基督降誕を紀念するに際して此の事を懷ふのは、恰も適當な事であらうと感ずる所以で御座います。

もとより、この「思ふ所に過ぐる平和」の眞意を會得する事は出來ましても、之を直に實行せんとする事は、個人に取つても國家に取つても、容易な事ではするまいと思はれるので御座いますが。しかし、如何なる高價を拂つても之を遂行する私共の決心だにあらば、それでも遂行し得ざる程のものではないと思はれるので御座います。しかも、私共は其基督の教訓を眞實に學ぶまでは此世界中に於て眞の

平和を起す事は決して出來ないと確信して居るので御座います。

或人は、平和は國際條約によつて得られると思ひました。しかし、それは空しき期待で御座います。元來、國際條約は僅に國民と國民との都合上の契約に過ぎないので御座いまして、都合によつて結ばれたものは、また都合によつて破られても仕方がないのであります。けれども、二千年前に御生れになりました私共の救主なる基督と私共との間に神の旨に適ふやうな關係が出來て、聖書によつて敎られた通りに、唯愛をもつて互に仕ふる事をいたしますならば、また更に國家と國家との間にも同じやうな關係が有たれるならば、どうして今日のやうな戰爭が起る事が出來ませうか。愛をもつて互に仕ふる事が國際條約の土臺であつたならば、今日の世界大亂は決して起りはせなかつたので御座います。

基督の御誕生の時に天の使が現はれて「天上には榮光神にあれ、地には平安、人には恩澤あれ」と讃めましたが、この平安を此世に與へ給ふ事は實に基督の天職で御座います。今の世の中の有樣を考へて見ますと、其平安即ち人々には惠ある平安が御座いますでせうか。國際上といはず、個人々々の上に於ても、その平安即ちこの世の中の疲れたるものに惠があるやうになりましたかと申ますと、決してさうではありませんでした。それは何故でせうか。基督の與へ給ふ平和は間違つて居るためでありませうか。基督の天職は空しい事であるからで御座いませうか。今日の言ふに忍びない悲慘な有樣を見るにつけても、私共は謙遜な心をもつて私共の國際的罪惡乃至一個人の罪惡を眞心から悔改めまして、そして其潔められました心をもつて、基督の敎、其人格、其精神によつて此世の中に於ても「思ふ所に過ぐる平安」即ち基督の與へ給ふ平和を受くる事が必要ではありますまいかと思ひます。けれども、私共は甚しく眞の平安を得る道を誤つて仕舞ひましたから、其「思ふ所に過ぐる平和」の道を見出すまで、私共

は極眞面目に其平和の君の歩み給ふた經路を探さなければならない。之れが唯今の處最も急務中の急務であると確く思はれるので御座います。

其平和の道を見出す手段は、私共が敵に對して憎む心を棄て、唯其爲に祈まして敵でも私共でも、一樣に神樣の前に謙つて俯伏して罪を悔改めまして、互に敵視することなく、共に神の子であるといふ事を認めて、其上に互に兄弟的關係をもつて百般の事を處决するやうに、諸共に働き得る事を望み且つ祈ります筈で御座います。さう致しますならば、私共の敵も亦私共と同じやうに基督の贖によつて神の子となつて相共に「思ふ所に過ぐる平和」を受ける事が出來ると思ひます。かくして始めて私共は敵でなく友となるので御座います。即ち神と共に此世の中を神の國にするやうに働く友誼的關係を有つ事が出來るやうになるので御座います。

私共は今年の降誕祭に於て、その平和の君を迎ふる國を如何にして建設すべきかを眞面目に考へる最も善い時期であると存じますが、私共は皆日々の生活に於て各その心の中にその平和の君の愛及び救などを味ふて、愛をもつて互に相仕ふるならば小さいつまらない境遇の中に在りましても、實に「思ふ所に過ぐる平和」が起るやうになるなると確信するもので御座います。

ちゝのさだめし　ときたりて
つみとがゆるし　なはめをとき
御代をたゞしく　くらしたまふ
おほきみエスを　ほめたゝへよ

みまつりごとに　地はうるほひ
よろこびのはな　さきにほひて
平和のなかれ　すくひのみづ
あふるゝばかり　世にあまねし

もろ〱のきみ　みまへにふし
たからこかねを　みつぎとなし
よびといのりを　日々さゝぐる
わが主の御代ぞ　とこしへなる

最大の寶物

植村正久

申命記の卅三章十三節以下を讀むとモーセが世を去るまへにイスラエルの人々に對して語つた事が記してある、自分は其の十六節の「柴の中に居たまひし者」と云ふ一句について話して見度いと思ふ、此の章を讀むとモーセがイスラエル民族の爲幸福あれかしと神に求めて居る事がかいてある天の寶物日によりて産する寶物月によりて産する寶物古山の巓の寶物老嶽の寶物地の中の寶物等種々の寶物を求めて居るどこか此の國民の行末幸あれかしと願ふて居る、併し此等凡ての寶にまさり此れなくば他にいくら幸福があつても役立たぬ、丁度例へばいかによく出來て居る盃でも底なくば役立たぬ樣に此等種々の幸福に添ふて此れを全ふしまた此れの基とも見る可き幸福即ち「柴の中に居たまひし者」の惠を求めて居る此の「柴の中に居たまひし者の惠」と云ふてゐるつまりモーセが昔時神の惠を味ひ知つて信仰が眞に固まつた時彼の生命が立派な基礎の上に置かれた事を記憶する事を示すのである、人間の生涯と云ふものは常に平地を水が流れて居る樣な有樣許りは續かない或時は懸崖絶壁から大瀧の流れ出づる如き事がある斯くて我々の信仰精神狀態を一段と高き所に進むのである、屢々かゝる事があるものである、モーセも思ひ起す自己の身上にしもかゝる事があつた其折深く心に感銘した神の惠深き事を今もう世を去る間際になつて過去を振り返つて見るとまことに喜ばしく樂しく感ぜらるるので人の爲に種々幸福を求むる中にも此れが一番大切だ何よりもよい幸福は此れだと言つたのである、彼れが昔時羊飼をして居

つた時は意氣が餘り盛でなかつた引こもり最中であつた、其折柴がまるで燃ゆる如く見えた、そして彼れは今まのあたり神の此世に實在せらるゝ事を見て其の保護攝理神の敎育訓練救の確かにある事を感じたと云ふ話である、併し一體モーセはヘブル十三章を讀んで見ると大變に信仰の篤い親を有つて居つた、モーセが生れた時親達はモーセの美しいのを見て此の美しい子を神は無意味に此世に送り給はぬ必す其の行末をまもり行末を全ふし何か神の御榮を現す御用に用い給ふと其の顏の美しきを見るにつけ神の御助のあるを確信して居つた、其處でいかに國王から男の子は總て殺せとて命令に背きて暫くの間隱して置いた、けれども終に隱しおはせぬ時が來たそれで其の赤兒を箱の中に入れてナイル河の蘆の茂みに入れて置いた此の物語實に美しい兩親はかゝる性質の人かゝる人の手に育てられて幼き時より神の事を學んだ、神の敎育、攝理のある事を學んだ。かれはパロの娘の子とされた、實に幸な身上夢の樣な話である、併し彼れの胸中には絶えず自分の屬する國民の事が往來して忘れ得ぬ、國を愛する精神また同じ血族關係ある團體の事をわすれ得ぬ、此れに加へて彼れが自らの國民を思ふ切なる情はイスラエル民族は神の選民である大なる將來を有する者であると云ふ思でます〳〵强められた、と同時に彼等の爲何か致し度いと思ふた而し若し彼れが此の擧を實行するとなると彼れには餘程困難な事が起つて來るのは必然の事であつた、先づ第一にモーセはパロの娘として幸福な、且つ人に羨まるゝ身上を捨てねばならぬ罪の樂エジプトの寶＝つまらぬ安ぽい物と解しては困る＝當時エジプトは文明の極點に達して居た時、藝術にまれ技藝まれ非常の發達を遂げて居た斯かる國民と同化し落付いて生長し生活し行くと云ふ事は實に愉快な事であつた然も此れを捨てると云ふ事は、例へば學問の非常に好きな人が學校に居られぬ樣になる苦痛、或は趣味の深い人風雅な人が田舍にうづもれてしまはねばならぬ苦痛或は出世の出來

る境遇を捨てゝ苫の浦邊に鹽でも燒くと云ふと同じ非常に苦しい境遇であつたのであつたと云ふ事を此所に考へねばならぬ。モーセは自己の志を遂げ愛する國民の爲に盡さんとせばパロの娘の子と呼ばれ榮譽榮華を極め男子として最も快心な事業文明的の仕事夫れを捨てゝ去らねばならぬ、恰かも外國で充分勉强の出來る人が親の看護の爲に留まらねばならぬ時或はミルトンの如く詩才のある人が文藝的の修養をすてゝ故鄕に歸らねばならぬ時の場合斯かる邊を案ずるとよく其の間の消息がうかゞはれる、今モーセは罪の樂エジプトの寶身分等を捨てねばならぬ此等の樂富貴に對して拒絶を能へねばならぬ場合に立至つた、且此の損のみでないパロの怒にふるゝと云ふ危險がある一方此れから先の將來を見ると流浪の生活只奮闘あるのみ且イスラエル人は實に度しにくき手にあまる人民種々わるい習慣のしみ込める人民今日我々が東洋の或國に行き土人の有様を見て手がつけられぬ樣に思ふ夫れを考へると此のイスラエルの人民が當時どんな風であつたかが想像がつき得るだらうと思ふ、かゝる人民を相手に事をするどれ丈の苦しさか想像がつき得るだらうと思ふ斯かる苦痛斯かる危險を眼前にひかへかゝる場合に彼はヘブル書にかいてある如く「信仰によりて彼はエジプトを離れ、王の怒を畏れざりき」とある斷然としてエジプトと緣を切るエジプトを後に見て其の運命を神にまかせ暫く浪人すると云ふ其時の彼の決心實に偉大なるものである、何か一時をごまかして都合よく取はからふなら其の手段もあつた事であらふ而し意を決して斷然とエジプトの榮華自己の快樂の生涯と絶緣し來る其時の心持は實に大したものである。

彼れは其れよりシナイ半島の方に逃れ行き暫くホレブ山の山陰にかくれて居た、私共は此所で其の時の彼れの精神狀態を考へねばならぬ、かくてモーセはシナイ半島に流浪する事四十年大公望が釣をした如くに彼れもつまらぬ羊飼をして此の長き年月の間を過したローレンスと云ふ人は雪中に立てる枯木を

見て此の樣に一葉もなく枯れて居る樣な木でも今に一陽來復春風吹き來ればまるで一變して靑々と繁つた木になると云ふ事を考へると考へる程此の世界の不思議なる事に感じて遂に神の實在を知るに至つた。彼のニユートンが林檎の落つるを見て引力のあるを發見した如く野に咲く百合の花一輪或は空飛ぶ小鳥など一寸した事から深い信仰生活に這入る事があるものである、モーセの場合も此れと同樣であつた、實際に火が燃えたのであるか或は燃え立つ樣に咲きし花であつたか或はまた夕日の燃ゆる樣な反射であつたか其れが詩的な感想をモーセの中に呼び起して夫れから考へ來つて遂に神の實在神の惠等を知るに至つた、神がモーセに對して我は「アブラハムの神イサクの神ヤコブの神」と言はれたのは此はイスラエル民族に深き同情をよせらるゝ神を云ふ事である、諺にも「孤子の叫は上帝の位を動かす」と云ふ事があるイスラエル人民の悲慘なる有樣は神の御心を動かした、神は此の人民を救ひ幸を給ふ斯くて此人民は終る筈がないと思つた、丁度モーセの親達が其の子の幼顏の美しきまた賢きを見て何か神の思召ありと思ふて殺し得なかつた如く、必ず神はイスラエル人民を救ひ給ふと久しい間考へ計畫をめぐらして居た此の時に當つて彼れの信仰は一般と進歩した、時節到來雲の晴れた如くに神の惠深き御姿があざやかに見え神我れを立たしめ給ふと云ふ確信自らの使命を明かに感じた即ちヘブル書一章にある如く「是見えざる者を見が如く耐忍べはなり」王、群臣、軍隊、文物、富貴、榮華等の魔力が目をさへぎるけれど今ホレブの山陰で燃え立つ樣に見ゆる木影に立ちて目に見えざる神を確信し得た、目に見ゆるパロ王の權力榮華と目に見えざる神の力の面白き對照である、年頃佳境に進みつゝあつた彼れの信仰は此の所に於て最も深き所に進んだ而して彼れの美しき高尚なる「神の人」と呼ばるゝ生活を造り上げる事が出來た、實に彼れの一身にはあらゆる誘惑がおそひ來つた、社交的生活に於けるまた孤獨生活に

於て生存競爭に於て人心反覆等の場合に於ける危險等數多くあつた、先づエジプト宮中に出入し當時風流社會に於て文武二道に秀でたる屈指の人物が人間の社會に出入する時に如何なる心持がするか、彼の西行がまだ俗名を名のり居りし時には文武に名聲をはせ兵法を語つて賴朝と夜を徹したとさへ言はれた彼れが宮中に出入して居る間に如何なる誘惑があつたか社交的關係により生ずる種々の誘惑があつた、夫れからホレブ山にこもりなす年もなくしてかゝる偉人が日を過して居る間の苦痛夫れからやつといざ鎌倉と乘り出した時事業を爲すに當つての苦痛其の苦心偉人にはまた誘惑も大きい、かゝる間に立ちてどこまでも望に滿ち勇氣ある生活を送らしめた者、見れば見る程尊く偉大に高尚なる人格をきづきあぐる樣に彼をならしめしは何か他なしホレブ山の山陰で或日ふとした事から心に深く感銘した靈の底に徹した「見えざるものを見る」確信であつた。モーセは實にはづかしき間に處して社會上のまた孤獨の誘惑に打勝ち續々たる事業を立派に切り拔けやり拔いて眞に精神的な常に勇氣を滿ち不平も云はず時に過なきにあらねど大體に於て精神上の平均を保ちてまさに世を去らふとするに當て愛した國民に別を告ぐる時に當り過去を想ひ、甞て燃ゆる柴の中の神を拜し其の御聲をきいた其の時の經驗が昨日の如く明かに思ひ起され實に愉快でたまらぬ、又此れによりて自ら幸にされてる「見えざる物を見る」此の信仰によりて此所までやり拔いて來た、山の寶、海の寶、天のもの地のもの此の國民に與へ度き事はまことに多い併し此れ等總てに優つて與へ度きは「柴の中に居たまひし者」の惠である、只神と云ふのではない、過去を思ふとわすられぬ者即ち「柴の中に現れし神」である、我々の生涯にも信仰の起つた時に拜した神、惠を感じた時の神、或は斯かる場合に自らを救ひ給ひし神と其あざやかな經驗が誰の身上にもあり度い、今まさに世を去らんとして既往を思ふ時に我々日本人が山とし言へば富士を思ふ如くに柴

の中に居たまひし者を」偲び出て且其の光榮に滿ちた愛に滿ちた恰かも慈母親の如き神、同時に深き志ある經綸なる神を知る此れは一生涯に於て何とも言はれぬ幸である、どうか斯かる幸が自分の愛する國民にも與へられかしと云ふのがモーセの願であつた、此れによりて我々も我々の生活に於てまた家族の爲子弟の敎育の爲廣義に言へば國家社會の爲に何を一番望まねばならぬか山の寶か海の幸か陸の幸か否我等は總て此等にまさりて「柴の中に居たまゐし神」を我が心　得ねばならぬ。（文責記者）

信州と靜岡

女子學院學監　三谷民子

信濃地方に催された協同傳道のために去十四日の一番汽車で上野を出發し二時十五分に長野に着きました、それから直に婦人會に參りましたが二時半の開會に間に合つたのは不思議な樣に思はれました。途中碓氷の紅葉は少しおそい樣ではありましたが天氣が非常に晴朗であつたのと暖かであつたのとで山と云はず川と云はず大變に美しく自然の壯麗なる風光に對して一種云ひ難き印象をうけました。

長野では盛んな御迎へを受け準備に從つて集會に出席しました、同市の高等女學校では基督敎主義の集會ならば學校内に其の廣告の紙を廻すさへ不必要であると申されたとかで女學校の生徒達は少なう御座いました。然し各敎會の婦人方や求道者の方々などで餘り大きくはないが淸らかな小ぢんまりとしたメソヂストの敎會は滿員で御座いました。此處で井深花子姉と共に一場の講演を致しました、それから千歲座と云ふ劇場で公衆に對する演説が開かれました。此處では婦人よりも男子が多い樣に見うけました。十五日は午後上田町に參りました餘り大きな町ではないのですが同町の高等女學校内で婦人大會が開かれました。此處は長野と違い女學校の生徒が過半數を占めて居りました。夜は蠶絲試驗場に於て

催された集會に出席いたしました、立錐の地なしとは此の事で御座いましよう、千二三百人も入らうと云ふ大きな建物は全く人を以て滿されて餘り込み合ふ爲に暑いと云ふ聲さへ耳にした程で御座います。其の内の三分の一は婦人で多く前列に座を占めて居られたので大變話し易い集會で御座いました。又同地梅花幼稚園保姆傳習所と云ふに參り皆樣に接する事が出來て嬉しく思ひました。同所では此度女子青年會が創立されたので皆樣が大變喜んで御出で御座います。次に十六日早朝上田を立て人車で四里の野澤と云ふ町に參りました、矢張り女學校で同校の職員生徒及び町の婦人方を網羅した會が催されました、一同大講堂に集り大變愉快に皆樣に接する事が出來ました、一時間餘りの後、別室に退いてこの女學校の校長、町長及び態々訪ねて來られた中學校長達と共に雜談をして居りますと、一人の女教師の方が來られて町の出席された婦人方が、もう一度集りを開いて講演を聽きたいと云ふ希望であるから、女學校の上級生と共に今一度集を開きたいとの事で、私は喜んでこれを承諾し餘り大きな集りではありませんが裁縫室で今一度親しく接する事が出來ました。午後は同校の割烹の組で拵へたといふ晝飯の饗應を受けて、更に一里たらずの臼田町へ向ひました。此所には女學校はなく小學校の建物を借りて集會が開かれましたが、婦人會と云ふ名目ではありますが聽衆の半分は男子で御座いました。然し私の言葉調はざる話でも大變喜んで熱心に聽いて下さつた事を誠に嬉しく思ひました。それから十六日の夜行で歸途につきまして十七日の早朝に歸京致した次第で御座います。

扨此度は至る處で誠に宗教の話に人心が皆傾いてゐる證據を見る事が出來ました。行つた先の女學校の校長職員方の宗教に對する態度の相違によつて、集會の模樣が變つて行つたのは誠に面白い現象と思ひます。先づ長野の女學校では基督教的講話は禁止された方で少なくとも歡迎せられない方で御座いま

した上田では快く受入れられ野澤では大歡迎と云つた風で、大變私は興味をもつて之を感じました、然かも、この比例が町の繁華或は土地の名望と反比例になつて現れて居る事が亦大變面白く感じました。「後なる者は先になり先なるものは後になるべし」とのキリストの御言葉の的中して居る事を思はざるを得なかつたのであります。

何處に行つても同じ道にある兄弟姉妹方の協同傳道に對し大なる興味を有し骨折りを惜まず、色々の準備、又歡迎をして下さつた事を大變うれしく思ひ誌上を以て御禮を申上げます。

それから十月廿四日には靜岡市のメソデスト女學生大會及び婦人大會に臨みました。學生大會はメソデストであつて婦人大會は其向側の靜岡市の倶樂部にて開られました。兩方共に非常なる盛會でございました。學生大會の有樣は私に取りましては深い印象を與へました。何百人と云ふ女學生が順序正しく居並んだ樣は花園を眺め入る心地が致しました。拙き者の話を靜肅に御聞き下されし事は嬉しい事の一つでございました。此智識を追ひ求めて居らるゝ青年女子が無くてならぬ一つの大切なる寶を其靈に受けらるゝ時の早からん事を祈つて止まぬ次第でござます。

婦人大會は靜岡市の有力なる婦人の集まられし會でございまして、これ又た此婦人達が主婦となられ居る家庭を思はせました。どうか「マリヤは已に善を方を撰びたり」と云ふ御聲を聞かれん事を。

廿五日には午後より教育家大會ありて男女の教師方の集會で御座いました。此會では青年の指導者、と、撰ばたる方々が主の御旨を帶びて最と小さき者の一つを礙かせざらん事を切に望む所でございます、其夜は教會に於て大演説會が催されました廣き堂は神の御言葉聞かんとして集まられたる男女で充ちて居りました。

翌廿六日。午前は精華女學校よりの招待を受けましたので其會に列し六百に餘る女學生に逢ふ機會を

得しは誠に喜ばしい事でございました。夜は女中大會と云ふ珍らしい大會に臨みました各家の主婦等は優しく親切に女中等に此會に出席せしめん爲に手傳はれし心根を察しまして、又同じ基督の贖に價値ある靈を以て此種の婦人等に神樣の慈愛慈悲の深く表はれん事を切望する次第でございます。

斯く私が出席致せしは此等の會のみでございましたが、十一月一日迄引續く協同傳道の各種の集會に盡力せらるゝ靜岡の信徒諸姉の捧げらるゝ時と財の多大なるを思はざるを得ません。神が此方々の殊勝なる計畫の上に御祝福の豐かならん事を祈つて止まないので御座います。

我福音を傳へずば禍なるかな

女子青年會第一寄宿舍 高田敏子

去る頃横濱根岸なる私の宅へ商業の用談にて四十五歳になる男子の方が尋ねて來まして急病を發して遂に死なれました。而して其の死に對して誠に不思議の因緣が有ります。私の父と此人とは別に知合ではなく只用事で參りました。用談終りて後話題は轉じて時局となり不景氣のため困難者多く戰爭なるものは絶對に避くべきものなど論じ話は自然宗教問題に移りました。客は是迄基督教も佛教も少し學びたりとの事なりしが、基督教でも佛教でも歸する處は同一にして此世限のもの云々といはれしに、父は默し難くそれは大なる誤解である、宗教は此世が目的で無く未來に繼續する事、靈界の存在を自覺せざる者に宗教の價値なく、是を知るは肉慾を脫し眞面目に未來の事を思惟するが必要である。人誰か死を自覺せざる者ぞ、又死は何時來るか、今日か明日か是又保し難き問題なれ共既に死の來る事を自覺すると同時に死後は如何に成行くかを知らざるべからず、而して是を知るには基督教に依つて研究する必要がある、基督教は他教になき十字架の教がある云々」と一時間に涉り語りました。氏は大いに感じ誠によき教を得て有難い、是より折々伺ひ教を聞きたいなど悅んで禮を云ひ、今日はこれにて御暇申すと立ち上らんとして立つ事が出來ず、其の場に卒倒し、見る〳〵內に顏が眞靑に成り、呼吸も只ならず、家族一同驚きて醫師を招き、父は病者に向ひ氣を確に持たれよ、神に祈れよ、御身の病氣は中風の樣半身麻痺はせずやと問ひしに點頭きました、其の時は父も生命に關するなどゝは

思はざれば「御身今肉體自由ならず、此時に當りて御身の鑑は如何なる働を爲つゝありや未來を研究する時である」など云ふに其間は別に何等の苦痛もなく言語身體の自由ならざるのみ。其内に醫師も來り病名は卒中腦溢血の恐あれば現場を一寸も動かしてはならぬとの命令同氏の自宅は我が家とは丁度横濱のはてから極なれば人を走らせても直ぐには間に合はず、醫師も二人迄招き出來得る限りの手當をしました。妻なる人も走て來ましたが其の時はまだ病者の精神も確かてありました。妻の顔を見て何か云ひたき様子なりし故、筆を與へしに手には取りしも最早其手利かず。此間父は幾度も默禱し且天國の道を話しました解つたと見えて點頭きました。妻の驚きは非常でありましたが、此時迄は猶全快の望を持つて居ましたが午後四時頃より次第に昏睡狀態に陷りました。醫師も遂に見込無しと宣告しました。夜に入て親類も五六人來り、六人の子供も來て父の枕邊に座し泣崩れましたが、其内の十六になる娘は狂する許りに悲しんで其の悽濇たる事見るに忍びませんてした。凡てかゝる場合に於て天は是か非かなどの迷信の起る時て御座います。終に客は翌日午前八時に腦溢血と云ふ病名の下に天國の人となりました。噫人生の果敢なきこと、逝く人の思ひ、遺されし家族の悲は如何ばかりでせう、推するの言葉さへありません。是迄別に交際もなき人が私の父の許に來つてふと宗教のことを聞き、人生の死は□「今日か明日か抔の問題を出して直に死んだなど、普通一般の出來事ではありません。併し凡てのことに攝理が御座いますからこれより彼人の遺族は他日必ず信仰の人となり幸を得ると信じます。先月の女子青年界に出て居ました植村先生の御話し中に哥林多後書六章「死し者に似たれ共生き憂るに似たれ共常に喜び」云々と御座いました。

若し父が商業の話のみにて宗教の話をせざりしならば、直に客は歸りましたでせう。さすれば、或は途中で倒れたかも知れません、神は私の父を通して救を與へられました。又神様が愚父に此様な大切な立派な仕事をさせて下さつた事を感謝すると同時に私共信者は如何なる場合にも躊躇せずに神の御旨を傳へねばならぬと思ひます。

視線と三教の差異

木岡莞爾生

先年T牧師が岐阜縣の御嵩て劇場を借り入れ、基督教の演説會を開かれた事があつた。此土地に禪宗の學校があつたが、其教師からT牧師に宛て叮嚀な禮を盡した書面が來た、其内容は斯うである。『貴殿は此度當地に基督教の演説會を開かるゝさうであるが、定に結構な事である。併し自分には少々註文がある、貴殿も素は佛教の家であつたに違ひない、甘改宗せられた理由を話されたい』と書いてあつた。T牧師は早速演題を改め『改宗の理由』といふ題で話された。縷々數萬言を盡された末、T牧師は斯く言はれた。『佛教と儒教と基督教との差異は、明に其肖像て分かる。佛教の高僧の木像を見られよ、瞼が下に垂れ視線が下向に向て居る。之れは西方淨土に往生安樂する宗教たる事を示して居る。又孔子の木像は視線が水平である、之れは正しき道の教である事を顯して居る。基督教の聖徒の肖像は視線が天に向て居る、之れは申す迄もなく在天の父なる神及主エスを仰ぐ教である事が明である』と説かれた。彼の禪宗の教師も此好例證には感じたさうである。

親への贈物

河井道子譯

ホワイト家に四人の息子と二人の娘とがあるが、末息子のガイ丈は未だ獨身なれど、他の五人は皆家庭を作り相當に有福な暮しをして居る。ガイとて社會で相當の地位を占めて居る處より家庭をつくる丈の資力は十分であるが、かれの佳人はなか〱承諾を與へぬので苦痛の試練を絕て居る處である、兎も角獨身者とてガイが一番兄弟連の家を巡回して居る今日も總領息子のオリバーの處にきて一生懸命に兄と氣むづかしやの嫂とを說諭して居る。

「今年こそは如何したつて兄弟が打揃つて年とつた兩親を喜ばせなくてはさ、去年のクリスマスを思ふと實にすまない氣持がする。勿論六人の子供達から皆立派な贈物は行つたさ、だがね、子供の顏を見る程嬉しい事はないだろう、家庭を持つて居ると獨身者の僕の樣に飛び廻る事は出來ぬと百も承知だか今度丈は是非僕の顏を入れて貰い度い、去年は誰も家へ行かなかつた、僕が急行で二時間ばかり行つたばかりであつたが、あの時の兩親の喜びと、又淋しさうな樣子とは一生忘れられない。嫂さん、血を分けた六人丈で云ふので、妻や子供を入れない樣にとの注文は嘸腹も立つだらうが、今度丈は何卒年よつた兩親のため犧牲に成て下さいよ。實際去年の淋しさうなあのクリスマス………」

オリバーは急に熱心になり出して弟の計畫を細にたづね出した。

「何？　六人が二十四日の夜竊りと家に入つて行くのだつて？　音もさせずに？」

「それはね、出來るよ、兄さん、昔からのあの老婢のメリーと整然と相談して置いたから。安心だよ、御父樣は餘程聾になつてきたからね」

「何？　聾だつて？」

「兄さん、忘れたの？　そうさ、此頃は餘程耳が惡

いと云つて來て居るし、それに御母樣はあの膝が未だ全癒されないからね」

「御母樣が何時そん事があつたんかい？」

「あれ、去年の十月。それ！　裏庭で轉びなさつたぢやないかね」

「ウン、そう／＼、すまないね」

「それだから偶には歸省もするものよ、さね、御父樣が聾で、御母樣が足が惡るくて夜は萬事を老婢に任せて二階の奧に休れるんだから少し位の音ぢや大丈夫、老婢に猫か何かの音と云はして置けばそれでいゝさ、實際年とつた親に熨斗や水引位ですむものかしら、偶に顔見せる位はしたつて當り前のことだらう」

「ガイ、お前の云ふ通りだ、實際すまない、家內にも子供にも氣毒だが一度位クリスマスに僕が留守にしても我慢して貰つて、親に顔を見せやう、他の弟妹が一致するなら僕は確に行く、約束した」

鬼の頸でも取つたやうにガイは大元氣でその家を出て、此度は妹のナンの處に行くと此處では大贊成をしてくれた。姉のサラも異存なし、第二の兄ラルフは西方から返事してよこし足が折れても屹度顔を出すとの快報、次の兄エディソンは却つて妻にすゝめられて是非とも來る事になつて居る。

「奧さんおやすみ前に一寸申上げる事を忘れる處でした。實はガイ樣が（お笑ひでしよう）是非今晩は昔の樣に奧樣と旦那樣との靴下を暖爐の處にさげて置いてくれとの御手紙でした。

老夫人は今や寢部屋に行かんとするので老婢を見て笑を含み、

「ガイが、そんな事を云つてよこしたのかい？　お前に書いてよこし私に何も云はぬとは妙だね、それでは兎も角もガイ丈は去年の樣に不意に歸へつて來るつもりかしら」

「多分私丈に內證で申されたのかもしれませんね、まあ昔の子供時代の事をしてくれと被仰も可愛いら

しいではありませんか？　さあ奥様釘も持つて參りましたから靴下を是非おかけ下さいませ」

夫人は老いたる良人を呼びとめ、

「郎君、ガイが子供の時の樣に郎君と私とのこの年寄りに今晩は靴下を下げて置けなんて、可笑しい子ですね」

「そうかなあ……　あれ達が小さな子供であつた時は去年の樣に思ふが早いもんだ、云ふ通り靴下を下げてやらうなあ！」

「屹度、ガイ丈ほ明日やつて來るつもりですよ、他のは來ませんでもね」

「奥樣うちの猫が又歸へつて來ましてあちこち歩き廻り私は捕へる事も出來ません。多分薪小屋に入れやうとするのを感付いた樣です、それで夜中に何か音でも致しましたら猫ですから御心配下さいますな一寸申上げて置きませんと夜中に吃驚りなさるかと思ひますので」

「よし〳〵お前に皆任せてあるのだから安心して寢るよ。よし〳〵、さあ、やすみませう。」

〰〰〰〰〰〰〰〰

「ひどい吹雪だね」

「二時間もおくれなくつて結構さあ！」

「シイ、きこえるよ、靜かに！」

「ナン！　笑つちやいかん、止めないと雪だまを頸におしこむから覺悟をし！」

「サラ姉さん、手を引つぱつてあげ樣か、肥大なものは動く事遲しだ」

「オイ、其の戸を開けられぬのかね？　僕は凍え死にさうだ、早く〳〵」

臺所から燈火がちら〳〵見える。雪圍の戸を六人が力を込めて押し開けると、中から「ホワイト家連中のお揃ひかと云ふ聲がする。

「そうだ〳〵早く入れてくれ給へ、連中がお揃ひだよ」

「六人揃つた、一人もおくれをとつて居らない。老婢、早くあけて」

「おゝ老婢、お前は眞實に好い人だね」
老婢「早くお入りなさい、お二人方は二階にお寢みですから、靜かに」
「シー、シー！」
「サラの、シー〳〵は死人を呼び醒ますに餘りありだ」
六人は靜かにする積りが却へつて騒がしくお互にけつまずくやら、抱えた荷物を落すやら、ワイ〳〵云ひながら暖かい臺所に流れ込みました。顎髯の總領オリバー殿、頑丈なエディソン、肥滿のラルフ、三十歳では若かすぎるサラ夫人、身長の高い瘦ぎすのガイ、廿四歳の乙女じみた花嫁のナン、揃ひも揃つたものである。老婢は滿足の溜息で、一同を見渡し。
「皆樣が恁う御揃で御出掛けになるとは思ひませんでした。眞實に嬉しいこと、おや最う十一時過ぎ嘸腹が空たでせう、私は御馳走を差上ますが先の樣な大騒ぎになると、其儘何も上げないで小屋にでも寢かせますが猫の樣に靜に差上りますか」
大詫に詫びて六人は暑い御馳走を受けたが、食べるは食るは、夜長の冬の旅行の上の空腹とて止め度がない程食べる。
「これは結構だ」
「此の御馳走丈のため態々歸省しても來た甲斐がある、此廣い臺所は懷しい良い處だね。」
「明日は飴引をしようさ」
「僕は今年で六年七年目だ、そうだ七年も家に歸へらなかつた譯だ、併し僕は西部で遠いからと申譯もあるが此の近所に家を持つ者が踈々しくしたとは赦せない」
「兄さん今晩の喧嘩は延期にしましよふよ」
「其が好い、もう寢ようさ、何だか兩親が降りてきて此樣を見付る樣な氣がするから早く此場は退却にしよう」
婆「それが第一です、何卒二階段を靜に御願ひ致します七段目がギシ〳〵音がしますから坊ちやん方は一

段飛越て下さい、サア蠟燭を御持ちなさいまし」
「大丈夫一段でも二段でも跨ぐは易いことだ」
六人は列をなし各自の昔の部屋に抜足で忍び入る樣子に婆やは一人大笑たが眼には時ならぬ露が宿つてゐた。
　ガイはなか〳〵目が冴えて到底寢ぶられない、雪は止むで今しも寒月が窓からさし込でゐる、何だか戸が少し開いた樣だと思ふと手に蠟燭を持つた妹のナンの聲がして「這入つてもよろしいか」と云ふ。
「可とも。何うした？　何事か起つたのか」
「否、少し御咄がしたくて」
「然う昔の子供時代に復た樣だね、寒いだらうさ」
「いゝえ少しも……眞實に昔が忍ばれますね。
「明日の稽古が出來つて？」ナンは吹出して
「まだ一頁あるけれど兄さん明朝手傳て頂戴ね」
「よし〳〵敎てやるから心配しなくていゝよ」
「今度こそ戲談ではないの、ガイ、私は貴兄の佳人を知つて居ますよ。外から聞きましたもの」
「そうだろう、マガレットと云へば君の親友だもの」
「未だ何とも確定とした返答をよこさないのですか、」
　ガイの顏には一種の雲がかゝつてきた。
「一言」もと云ふた丈である。
「隨分永い間、兄さんは思ふて被在るのでしよう」
「一日千秋の思ひだが、實際は只二ケ年間の執着だよ」
「二ケ年のそれならまだ〳〵充分時がかゝりましよう忍耐なさいね」
「此冬は南方に行くと云つてゐた、其處には大變彼女に夢中な奴が居るから、白狀すると僕は實際胸が妙にクシヤ〳〵して困つてる。
「氣の毒ね、ガイ、よく今度はクリスマスに彼女を訪問しないで家へ來たのね」
「二年も彼女に心奪はれて老いた父母を構はずに餘所でクリスマスをしたかと思ふと面目なくて今年は御詫の樣なものさ、昨年一寸歸省した時の兩親の寂

しさうな様子を見てから甚麽ことしても……假令愛人を失ふても降誕祭には歸省しようと定めた、マガレットが何と僕の事を思ふか僕には分らない」

「ガイ、先方では貴兄が老いた父母を慰めに萬事を犧牲にしたことを聞くと尙更……オ、寒いこと、もうねましよう、終はよくなるからね心配しないで……お休みなさい、

…………………………………………

クリスマスの朝、外は野も山も銀世界、內は暖爐で春の陽氣の其中に老夫婦はとぼ〳〵と步いてゐる、急に夫人は「一寸郎君と大聲を出した、聾ながら主人は呼びかけられし氣がしたと見えて妻の傍に近より指差す方をみると、是は如何に昨夜戯談にかけた靴下が贈物ではち切れそうであるのみならず、六人の子供各々の靴下がぶら下り、其側に包が山をなし兄弟互の名前がついてゐる、夫婦は腰をぬかさんばかり仰天して眼をパチ〳〵口をパク〳〵ゆらせるのみであつた。

「子供達が此家の中に居りますのですよ、郎君」

二人は平常閉ぢてある二階の方にと硬ばつた豆の出來る丈の速力で驅上つて行つた。昇り口なる部屋を開けると「メリ、クリスマスお父さまお母さま!!」と幼きナンの聲がする、熟視と愛情の溢ふれた美しい、しかも寢むさうな眼が枕の上から此方の二人を見てゐる。是は實際かしら夢かしら、返事もせずに次の部屋を開けると大なラルフが健康そうな顏をつき出し寢てゐるので母親は我知らず近寄り接吻せんとすると矢庭に太い腕をヌッと出して母を抱きしめた。餘りの事に笑ふも忘れて隣の部屋に行くと、今度はエデソンが哄笑しながら毛の枕を投なげてよこす(父が受取れる樣に注意しながら)。枕をもつた儘にサラの戸を明けると子供の時と同じに床に座て靴下を穿いてゐる、總領のオリバが何時のまにか搔卷の姿で後に立つてゐる、ガイは兩手を擧げて「メリ、クリスマス、大々好な御父さんと御母さん私共は好い子供達でしよう?」何が何やら老人達は惑々して

眼を瞬くのみであつた、婿達は嫁達は孫子達はとて四方を見廻はしても自分達の血を分けた六人の子供等の外に誰もゐない、恁麼嬉しいクリスマスが又とあらうかと思ふと只眼が一層に霞むのみ。

朝飯の食卓の大賑やかさ、嘻々たる聲の勢に如何なる惡魔も跣足で逃げたに相違ない、夫人は「メリ、御前は皆と組んで私共二人を驚かしたのだね、マア甚麼して六人の大勢を音もさせずに入れたか偉いものだよ」と婆やは叱られたのか賞められたのか分らないが皆と共に笑で濟せておいた。

食後に三人の息子は父と共に後方の家畜納屋に行くサラは友人訪問、ナンは何か母との相談で橇で出て行つた後に、末息子のガイのみ母親と二人で居間に殘つて打明け談に餘念もない。母に心を打明けられる青年は幸福である。

「僕は實際失望して全く思ひ切らふと思ふた事もあるのです、マガレットは何を形容しましよふ、スーと抜け出して捕へ様のない人間です。南方へ行く前に私に最後の返答すると約束しましたが、今日こそ手紙でも來る事と心待ちに待つてゐます。母さん笑はないで下さい、僕はなか／＼苦しいのですから多分クリスマスに斷り狀も氣の毒と思ふて遣さないのでせう」と溜息をつきつゝ幼稚の時にせし如く母の膝に寄りかゝると母は仔細あり氣に微笑てガイの頭を撫でゐる。

「何だか橇の鈴の音がする様だよ、ガイ、」と云ふ中に確に門の處に音がする。急て青年は戸を明けて見ると夢にさへ忘れ得ぬ愛人の優しい姿が靜々とやつて來る、二ケ年も影の様に捕へ方がない此女が自分から進んで此田舍に雪中來るとは只事ではない。溫い部屋に案内したガイは四方を見ても母もナンも何處かに逃て仕舞つた、氣の利くのは女に限ると厚意を心で感謝しつゝ佳人に向ひ。

「ナンが貴女を呼び寄せたのでせう」

「滿更、ぞうとばかりでも有りません」

「今日こそ、あの返事をしていたゞく日ですのね、若

や卿は自分で其返事を持參してきて下だすしたのかしら」

「貴方が私の處に來ないで年老いた御兩親の許に被在したのは本當に感心ですよ、其が私に氣に入りましたの、それだから貴方の欲いものを上げようかと思ひましてね……

「マガレット!!

「私はね貴方に何もクリスマス贈物を差上げませんでしたが……私では不可ませんか。

「私ではいけませんか？……オ……」と安心と喜悦で重荷をおろした溜息、又言葉をつぎ。

「マガレット！　本氣？　此贈物がいけなくてどうしませうア、有難い」と云ひつゝ佳人の手を握つた。

正午に食堂は破れるばかりの大騒ぎ、食卓は山海の珍味で重さに耐へ難き樣子である、其周圍を取卷いて着座した九人は恭しく頭を下げると、家の老主人は、いと靜に。

「クリスマスに我等地上の者に降り給ひし主よ我等に今日與へ給ひし此喜悦と此最上の恩惠とを感謝す、我等は主を讚美せんそは主は又我等の老行くを忘れ給はで我等の忠實なる子供によりて限りなきの喜を降し給へばなり」と感謝した祈禱の聲は震へてゐた。

小さい女王様

森田松榮

少年少女諸君は和蘭といふ國を知つてゐらつしやるでせう。この國の人々は、何百年も昔、日本へはる〳〵渡つてきて、我々の先祖に、神様のお話をきかせて呉れたこともあるので、我國とは、關係の深い國です。今はこの國の都のヘーゲといふ所が、名高い萬國平和會議の場所として、知られて居ります。今この和蘭を治めてゐらつしやるお方は、天子様ではなくて、女王様でございます。この女王様は發明でお情深くて、人民から大層敬慕されていらつしや

います。このお方は、はやくお父様の國王様が、おかくれになりましたので、まだ小さいお姫様の時に女王におなりでした、ところが何といつてもお年が小さいので、御自分で國をお治めになることが出來ません。そこでお母様のエンマと仰せられる太妃が實際の政を執つていらつしやいました。

ところが、お傍におつき申して居る人達が、この小さいお姫様に、「あなた様こそ、ほんとうに女王様でいらつしやいます、將來に王位にお即き遊ばして、和蘭をお治めになられますのでございます、」とたえず始終云つてゐたものと見えました、この小さいウイルヘルミナ女王様は、折々少し高慢におなりになりました。女王様になつてゐる。少女が、少し位思ひ上つて、高慢になりますのは、無理もないことと私は思ひます。

或日のこと、この小さいウイルヘルミナ女王は、攝政妃であらせられ、お母様のお部屋へいらつしやいました、お母様は御用中で、お部屋の戸は閉つて居りました。小さな女王様が戸をコツ〳〵と輕くお叩きになりますと、

『どなたでいらつしやいます。』

とお母様がおききになりました。

『和蘭の女王でございます。入りましても宜しうございますか』

とお姫様はおつしやいました。ところが一言のお返事も御座いません。お姫様は、重ねて戸をお叩きになりました。するとお母様はまた。

『どなたでいらつしやいます。』

と仰せになりました。

『和蘭のウイルヘルミナでございます。入りましてもよろしうございますか』

とお姫様はおきゝになりましたが、今度も一言の御返事もございません。お姫様はおづ〳〵したお聲で、もう一度、

『入りましても宜しうございますか』

と仰しやいますと、攝政妃は又仰しやいました。

『どなたでいらつしやいます』
『お母様の小さな子でございます』。
『お母様の小さな子はお入りになつてもようございますよ』
と仰しやつたかと思ふと、戸はさつと開かれました、そして少さな女の兒は、お母様のおさしだしになつたお腕の中に抱かれました。小さなお姫様が、得意がつてゐて、そして高慢で、自分を和蘭の女王だ、ウイルヘルミナ陛下だと云つた臣下達の言葉を憶えていらつしやいました時には、お入りになることが出來ませんでした。けれどもこのお方が、御自分の本來の立場に下つて、
『私はお母様の小さな子でございます。』
と仰しやいました時には、お入れになつたのでございます。
少年少女諸君は、イエキリスト様が、私達に、お祈りをする時には、
『天にまします我儕の父よ』
と云へと、敎へて下さいましたのを、御存じでせう。大層なお金持ちの人は、神様の戸を叩く時に、もしかすると時々、
『主なる神様、私は大層なお金持ちでございます。私はあなた様にお話申上げても宜しうございませうか。』
と云ひたくなるかもしれません。この人は一言の御返事も頂けません。又時々、えらいお役人が神様の戸を叩く時に、
『えらい神様、私はこの國の位の高い役人でございます。私はあなた様とお話が致したう御座います』
と云ひたくなるかも知れません。神様は一言も御返事を遊ばしませんのです。
けれど、だれでもが、自分の足らないもの、弱いこと、罪の深いことを心得て、神様の戸口へ來て叩いて、
『神様、私はあなた様の子供でございます』

と申しますならば、神様の戸は開かれ、神様の腕はさしのばされ、人は神様のお胸に懐しまれるのでございます。

少年少女諸君、私達は高慢になりたくないものです。私達は、彼の人はお金持ちだから天國へゆく、あの人はえらい役人になつたから天國へゆく、とは思ひません。人が頭を高くして、もう星にも届きそうだと思ふ時はきつと、神様からお返事をそんなに頂けますまいが、

「父よ、私共はあなた様の子供でございます」

と申します時には、神様は聞いて下さるのでございます。

搜眞女學校青年會歌

藤本柏稜作歌

（一）
朝なゆふな荒磯を
よせかへる波に　みがゝれし石の
かたきこゝろに　なぞかどのなき

（返折）
つとむれば甲斐ある　人の世のためし
いざ〳〵たて勵め　つくせやみたみ

（二）
ひとつなればやがては
たちきえのするを　よせかけておけば
もゆる炭火の　こゝろは何ぞ

（三）
目にみえねど春風
ふきわたるまゝに　野山はめぐみて
枯木の花に　なりゆくもげに

○

辻村靖

我校の秋季修學旅行に所澤飛行場に行きて機の上らむとするときによめる

白露を科戸の神に拂はせて
ひこそきのぼる丘のはらの上

むさしのゝ千草の末に秩父ねの
　むら山はれてあきつみだれとふ

秋のころ、相摸の三崎に遊ぶ尉ケ島にわたりて、知る人の別墅をかりて一夜ねにけり。あまりに遲くつかせたまひたれば、晩餐のものとゝのへまゐらせむにものもなし」など鍵預りの媼はかへす〲云ふ何かわびしかるべき、其簡易の生活こそうれしけれ。

　夕なぎに小舟こぎいでゝさがみのや
　　みさきの市に魚買ひて來な

あくる朝け遊ケ崎に行く

　小目とるありそをとへば海士の子の
　　野菊むれさく小みちをそさす

ひるつかた逗子葉山を經てかへらむとするころ小雨ふりきぬ

　老漁夫が怪しと云ひし夕雲や
　　かり田のおものけさの村雨

　こえはてゝかへりみすれば栗畑の
　　をばなのうれゆ沖の島みゆ

彙報

○東京基督教女子青年會

▲旅行者の友委員會　十一月三日開會、種々の協議あり林、松崎兩擔任者よりの事業報告は一同をして感謝に堪ざらしむ

▲寄宿舍委員會　十一月四日午後一時より開會し種々協議する所ありたり。

▲青年會委員會　同日午後三時より開會し會員募集の件其他の事項につき協議す。

▲祈禱週間　八日よりの祈禱週間は本會に於て開かるゝ聖書組生徒、指導者並に幹事等の來會あり、日々二十名內外の出席者ありき。

▲傳道講話會　十日本會附屬好友園に於て傳道講話を開く今井革先生の講話あり出席者は二十余名なりしも皆熱心に傾聽せり。

▲女學生大會　十五日都下女子學生の爲に大會を青年會館に於て開く開會前豪雨ありしにも不係百九十名の來會者あり、井深夫人司會され唱歌隊の讃美あ

り河井道子幹事「我等の强歌」と題して女子に如何に世の誘惑多きか之が爲には神によりて打勝つべしと述べらる次に安藤太郎先生感謝は基督信者の生命也との題の下に先生御自身の御經驗より總て感謝によりて力つけらるゝ事又それを味ひ得る信者の如何に幸なるかを說かる兩氏に依りて一同は深き感を與へられぬ、後司會者より聖書研究希望者並に入會希望者の記名を求めたるに未信者にて九名信者にて六名の記名者あり之を學校別とすれば堀越裁縫女學校、女子職業學校、精華女學校、某學校等なり、河井幹事の祈りを以て閉會す。

▲新設聖書の組　本月中旬より本會附近なる榊病院看護婦諸姉の爲め早坂のふ子姉に依賴して聖書の組を始む。

▲新入會員　其後の分左の如し。

磯邊とき子　內山美代子　八太しほり
吉見幸子　太田美子

○東京女子靑年會所屬好友會

神の惠と皆々樣方の御盡力によつて益々盛大になつてまゐりまして四十五名の園兒は每朝八時頃から草履袋とお辨當を肩にかけて三四人ヅヽ相携へてニコ〳〵しながら集つてまゐります、先生の顏が見ると自分の顏を見ておじぎをされるまではお早う〳〵と云ひつゞけて居ります、九時に鈴が鳴ると大悅びで廊下に列びます是から子供の大好なお稽古が次の樣な時間割で始まるのです。

九時――九時四十分、朝の輪(歌及び話)、九時四十分――十時十分マーチ（一の組十分、二の組七分）及び遊步十時十分――十時四十分恩物、十時四十分――十時五十分遊步、十時五十分――十一時三十分手藝、十一時三十分………お辨當の用意十二時食事及遊步、一時三十分――二時遊戲。

朝はお祈で始めます一同實に靜なものです開園後四ケ月餘にしかなりませんが澤山の歌も覺えて中々上手に歌ふようになりました、此間などは園の前を通りかゝりました二人の救世軍人が讚美歌の聲を聞き

付け參觀に來られました、そして三十間分の遊戲時中感心して見て行かれました、又管野夫人の處へ出入する客や商人が朝やお晝のお祈の樣子を不思議に思つて質問するそうです、或時小供が家で朝夕の食事に兩親かお祈をしないで箸をとるのを不思議に思つて子供「あらおかしいお祈しないでたべる？」親「では何と祈るの？」小供「私がお祈して上ます」と樣な事があつたそうです、ですから園兒が神の子となるばかりでなく其家族や周圍の人達も救れる事と一同喜で居ります。

十月十三日には植物園に連れてまゐりました私共二人では手が足りないと思ひましたから管野夫人をお願して參りました、每日狹い庭で遊そんで居るのであの廣い園に放された四十餘名の小供は思のまゝに鬼ごつこをする兒もあればお猿さんの藝に氣を吞れて居る兒があるかと思へば狸の小舍の前で「カチカチ山」を歌ふ兒もありました、約一時間ばかり此樣にして遊んだ後、亦列を作つてお池の鯉を見に參りました、數も分らない程の黑や赤の鯉が可愛い小供が鯉の歌に合せて投げてやる麩をさも甘さうに食べて居ました、十二時に事務所の前の芝生の上に大きな輪をつくつて例の通に神樣に祈を捧げて食事をいたしました、怪俄をした小供も步けなくなつた小供もなく二時頃無事歸園いたしました。

十月二十七日には園兒の友達十三名ばかり參りまして一日樂しく遊びました、それは收獲の週間が終つて感謝の週間の時でした、見えない神樣には何も捧げる事が出來ないから、其代り幼稚園に入る事の出來ない近所の小供を一人が一人づゝ連れて來て遊ばして上げたり各兒が厚紙細工で籠をこしらへ其中に幼稚園の庭に出來た南京豆を入れて贈る事に致しましたのです、集つた十三名の小供は何れも興味をもつて實に珍しさうに歌つたり遊戲をしたり積木で家をたてゝ遊んだりして少しも飽きた樣子は見えませんでしたが、午後二時になつたので用意してある贈物を與へて歸らせました。

本園の日曜學校は時間の變更や近所に日曜學校の出來たゝめ初めよりは數が減じましたが、此前の日曜日などは百三十名ばかり集りました、十月初頃から陶山姉が大そう熱心に働いて下さいますので私共は感謝致して居ります。（好友園報）

◎旅行者の友報告　林、松崎兩擔任者によつて日々助けられつゝある旅行者には行先の住所不明の者が誠に多く日々殆んど無い日とてはありません又汽車賃不足の爲進退極まりし者も十數人世話致しました、宿泊させました者の中には奉公の目的にて無斷上京したる者口入業者に身を托せんとて何の的もなく家を出し者、家庭不和合の爲出奔せし妻或はよるべなき少女、老母等がありました、それ等の者は親元に紹介の結果歸國せしめし者三名、養老院に御頼みした者一名奉公或は工場に世話した者若干名てあります年齢は廿歲前後が大多數で中には哀れな徑路を經て來た者がありますが、無謀に上京した者の多い事は心痛に堪えぬ事であります。

○搜眞女學校青年會發會式

當青年會に於ては去る十月廿九日左の順序により發會式を擧行せり。

一、奏樂
一、開會の辭　會長
一、株別の歌　委員同一
一、會歌　會員一同
一、祈禱　林顧問
一、閉會の辭　會長
一、聖書朗讀及祈禱　副會長
一、書記及會計報告
一、講話　河井先生
一、祝辭　藤本教頭
一、讃美歌四百三十六　一同

本會の組織に至りし來歷の大要は左の如し。

今を距る事凡十有五年前我が搜眞女學校が猶ほ山手町に校舍を構へし頃當時在校の先輩諸子の發起により臺灣傳道同志會なるものを組織せしがこれ臺灣生蕃人傳道會社の事業に同情を表し且つ献身的精神を養成せんとの目的の下に設立せられたるものにして我が校に於ける精神的活動の端緒とす、實に明治三十二年三月の事なり、一見微々たりと雖も內に燃ゆる精神ありしかば遂に焔と顯はれ四圍を照し衆心を勵し漸次會員の增加を見るに至る毎月一回催さるゝ例會に於ては或は教師の奬勵を仰ぎ或は內外傳道地の研究をなし或は偉人の歷史を學び、或は教役者の實談を乞ひて益々傳道精神の涵養に勉む、集る所の會費は小額なりと雖も悉く傳道事業、慈善事業に用ふ在天の神焉ぞ此熱誠なる働に恩惠を下し給はざらんや。斯くて明治三十五年三月に至り著しく盛況を呈し、從つて集金稍餘裕を生ずるに至る毎例會に於ては會員各自啻に先輩の指導教訓を仰ぐのみなら

ず自ら進んで傳道するあり、奮然起つて恩惠の證をなす者あり。已の罪を懺悔して潔く獻身する者もあり。神の靈火まさに下る。玆に於て更に傳道事業を擴張せんとして先づ會の名稱を改めて廣く捜眞女學校傳道會と稱し、本會經督の日曜學校を設け其教會員の厚意に由り其住宅を借り毎日曜無邪氣なる子供等に道を傳ふ。主任教師は本會員中より之を撰定して任に當らしめ同校一切の經費は本會之を負擔す。明治四十二年我校の神奈川に移轉するに當り本會も亦此新天地に活動を試みんと期待せしも榮枯盛衰は世の習とか本會亦之に洩れ難くやありけん、移轉と共に會員の異動著しく會員の意氣稍沈衰の感なき能はず、然も爾來數年間或は慈善事業に盡す所あり或は婦人懇話會の下に生徒の母姉を招待して間接に傳道に盡す所ありしと雖も僅に在籍生徒數の三分の一に滿たざる會員に過ぎざるに至れり。近來會員の心中に頻々囁く聲ありて傳道を促す。然れども信仰薄弱の身を以ては如何でか究理に走り求智の風潮に臨みて傳道の功を奏し得ん。玆に於て會員或は三々五々心を一にして夜人靜りて密に天父に祈願するあり、或は月下に相語りて勵ますあり斯くて時機の到來を待つ事久し。先是、我校長日本基督教女子青年會主催夏期修養會の主旨に贊成し毎年數名を之に派遣す、得る所甚だ多し、本年殊に多數のもの之に出席し感激する所少なからず、爾來覺醒して著しく信仰の復興を見る、機正に到來せるを見て本校々長も亦校内に青年會支部を設置する事を許可せらる。吾人永年の宿望是に實現せらる亦喜ぶべし。熟云慮らに其の主旨に於て傳道會と毫も異る所なければ今回更に改稱して女子青年會の名稱の下に大活躍を試みんと欲するなり。以下略（富田文子記）

又た捜眞女學校教頭藤本傳吉氏の述べられたる祝辭の大意は左の如し。

聖書の中に「心に信じて義とせられ口に云ひあらはして」云々と云ふ句がある。今日諸君は女子青年會なるものを設立せられたと云ふ事は實に結構な事である、即ち諸君は言葉の實踐躬行者と成つたわけである。元來教育の目的は只之を受けるのみならず、内部より外部に向つて自發運動をなす事に由りて完成するのである。こゝに於て教育の價値は發揮されるのである。此意味に於て我々教育者の教育の無意味に歸せなかつたのを見て神に謝せずには居られぬ。婦人の男子に尊まるゝ一はたしかに女子のひそかなる力を有して居ると云ふ事であると思ふ。此點から考へると基督教の精神と婦人の心とはよく似て居ると思ふ、昔女子と小人は養ひ難しと云つたが其女子が基督によりて大いに自重する事が出來る、又基督のため活動する事が出來る、只古の婦人の樣でなく靈肉共に强硬に以つて本會の目的を斷行せられん事を切望してやまない短言を以て教員を代表していさゝか祝辭といたす次第である云々。

○弘前女學校青年會

弘前女學校青年會は大正三年五月設立。正會員十五名、普通會員四十八名、合せて六十三名にして役員は顧問校長ミスアレキザンダー會長教師岡本翠、副會長—櫻庭つね、書記何傑はな、會計竹中カッヱイ、矯風部長教師大高秀子、誘導委員長教師佐藤八

重子、集會委員長敎師竹中愛子、慈善會部長敎師古川たけ子。本會にては第一木曜日には靑年會祈禱會或は矯風會を開き或は聖書硏究會を開くを常とす、第二第三の木曜日には靑年會慈善部を開き一同讃美祈禱の後直に仕事に取掛る。仕事は編物、縫物、細工物などとす、之を賣りて利益は全部敎會又は他の慈善事業に寄附となす年一度矯風大會を開き敎會所屬の靑年女子を招く、以上規定の事項著々と進行いたし居り候。去る十月二十日は矯風大會を開き卒業生敎會の婦人を招き申候、會としては正會員は少なく甚だ微々たるものに御座候へども將來大いに發展の見込あり一同嬉しく存じ居り候。

來る第二日曜日には六名の洗禮者を出すべく皆感謝の中にもいよ〳〵神の惠みいやまし加らん事を祈り居り候。

○ウヰルミナ女學校靑年會

晩秋の候とて日々寒さ加はり居り候今日此頃本部皆樣神の御加護の元に御働きの御事を深く感謝に堪えず候、當校靑年會も回を重ぬる毎に盛んになり此度々數名の正會員を加へられ申候、又十月の初旬には朝鮮の我同胞の爲働かれつゝあるコルテス敎師の講話を願ひ申候、氏はキリストに連れと云ふ事につきやさしく御話し下され殊に流調なる日本語は私共の心を引き申し候十九日には松山敎會の佐々木牧師の永遠の腕と云ふ題にて誠に有益なる講話これありその他生徒の集りもなか〳〵見るべき物と相成り國家多端なる事にもかく幸にある私共は只神の御惠と感謝致し居る次第に御座候。

○同志社女學校靑年會

御壯健にて御活動の御有樣乍蔭喜び上げ候。私共も幸に誠に健康にて秀て美しき自然の中に云ひ得ぬ喜びと滿足とを味ひつゝ日々の務を盡し居り申候當同志社女學校靑年會に於ても本學期よりは修養會に出席せし楳垣野崎兩姉等を初め多くの熱心なる會員

等力を協せて心を一にし會の發展と相互の向上の爲樂しく働き居り申候。九月廿五日に修養會の報告會を催し三人が交る〳〵立ちて言葉調はずと雖も熱心と希望とに充ちたる報告を致し申候。其後は大奮發にて毎週一回祈禱會を催し候處通學生の出席者中々に多く且眞面目で熱心なる集會にて有望に御座候、當校にては去る四月までは青年會は寄宿舍の會の如き有様にて集會なども日曜夜に開き居り候次第に御座候。また十月三日に觀月會を校庭に催し申候。急の思ひ立ちにて準備整はざりしにも拘らず、デントン富森兩先生を初め其他の御盡力により盛大なりしは殊の外嬉しう御座候ひき。然かも三四時頃俄かに夕立雲のかゝりしよと思ふ間もなくぽつ〳〵と降り出せし時には只恨めしげに空のみ眺め居り候ひしも。やがて雲すぎ雨止みて、私共に無限の滿足を與へ申候、先づ有志者は靜和館の塔に上りて夕陽將に沈まんとする西の空を眺めつゝ夕飯の御辨當を平げ居り候中に軈て一點雲なき大空に氣高き姿を現はしたる滿月、我を忘れて見とれ居りしも暫時にて集合を告ぐる鐘の音に焦立てられて塔を下り申候。靜和館と平安寮との間の庭に一同集りて漸次上り行く月を眺めつゝ合唱せし三百八十八番の讃美歌は今尚耳に殘り居り候、司會者西しげの姉の聖書朗讀祈禱の後此會の趣意希望とも云ふべきものを手みじかに述べて親睦に移り申候。役員等が骨を折って準備し、一二年の小さき姉妹等がせつせと食堂より運ばれし御馳走は配せられ庭の一隅にしつらへたる汁粉店も間もなく滿足の盛況を呈し候ひき。此處に一團彼處に一群となりて盛に笑ひ盛んに語るもあれば。心ゆくばかり聲のあらん限り大神を讃美する歌を歌ふもあり。來年とは云はず來月も一度觀月會を催して下さいと强請する下級生もあれば來年はもう卒業して此樂しい會には列る事が出來ないだらうとこぼす上級生もあり、中には餘興にとてか大コブ打ち出せる一姉妹も見受けられ候。興は盡きねと冷氣を覺え始めしまゝ小さき姉妹方に恨まれつゝ閉會せしは八時頃

に候ひしがあゝ面白かつたとの聲彼方此方の御部屋より洩れ聞えし時にはさすがに嬉しく感じ申候。尙今學期より二三の姉妹方の熱心により仕事會をもはじめ毎週金曜日放課後、四五十名のもの集まりて「ひとりぼつち」を聞つゝ熱心に針を運び居り候、かくも多大の同情と熱心を見んとは發起の姉妹方も豫期せざりし處にて愈神の御恵を感謝すると共に此の働きの永續せん事を祈り居申候、其上バクストン師に毎月一回づゝ御上京を願ひ當會員のため聖書講義をして戴く樣になり一同喜び居り申候。神が斯も感謝すべき事のみを私共の爲にそなへ給ふを見種々なる方面より與へらるゝ教訓を悟りてはいよ／＼神の御爲と人の爲に盡さんものと勇み立たざるを得ざる次第に御座候然し吾が青年會としては上出來なりし。九月以來のこの經驗は全く諸愛姉妹方の御同情と熱心なる御祈禱の賜と深謝致し居り候。なほこの上とも弱きわが會の事を心にとめ給ひて御祈りのはしに加へられん事を切に願ひ上げ候。當靑年會の近況御知られ申上げ候。（宮川幹枝報）

○プール女學校青年會

早くも戰國の夜は更けて肌寒き初冬の風は吹きそめ候。當會にては神の御守の下に勵みつとめてかよはき乍諸種の働きにたづさわり居り候。只今過般の祈禱週の模樣を少しく御通信申し上ぐべく候、第一日（八日）は聖日のため集なく各自自由に祈り候第二日（九日）は午前八時より一時間吉本先生の司會にて開かれ吾等信者は着眼點をたかめて未だ救はれざる者を見。彼等の爲に出來得るかぎりつくし祈るべきなりとの御話ありて後諸會員の祈禱御座候ひき、第三日（十日）は同じく一時間伊藤先生司會の許に靈の戰における絕對の勇氣と武器につきて御講話あり又熱心なる多くの祈は相つゞきて絕へ間も御座なく候ひき。第四日（十一日）は林先生によりてキリストの良き兵卒につきて伺ひ諸會員の熱心なる祈は遂に時たらずして共に聲を合せて祈り申し候。第五

日(十二日)は本校にて修身倫理のため會する時を得ず各自自由に祈り申し候。第六日(十三日)吾等大なる援助者によりて日々の戰に勝利を得べき事を司會者牧岡先生より伺ひ、諸會員は昨日にまさりて祈の靈にみたされて祈り申候。第七日の分は本校は土曜日休業の爲十三日の午後に開き申候、五時半より六時半に至る一時間を、司會者桑野先生の御話「いと小さき事にも心せよ」を伺ひ且願ひ且感謝して時たらずしてついに一同共に祈り申候。かくてたまはりし一週間を西の人の爲東の人のため知る人のため知らざる人の爲に費し得し事を一同深感謝しなほつゞきて諸働及諸人の爲に祈り居り候。

○傳道女學校青年會

此度萬國女子青年會祈禱週間に當校青年會に於ても萬國の姉妹方と共に祈るの特權を與へられしことは此上なき幸福と存じ感謝致し候、扨第一日曜日に於ては午後三時より會長の元に會員三十七名と熱心なる祈禱を捧げ種々なる感話をもつて閉會致し候月曜日より土曜日までに於ては午後七時より祈禱會の開會と定め熱心なる姉妹方の祈の下に此週間祈禱會も閉會をつげし事は全く神のゆたかなる御恵と一同感謝致し候、尙青年會に於て會長及委員相談の下に左の如くに定めし候、一ヶ月四回の金曜日午後七時を以て開會致す事とし第一祈禱會、第二經驗會、第三講演會、第四聖書研究會の四つに御座候、何卒本部に於ても當青年會のために御祈り下され度願ひ上候と共に當會員も益々青年會の發展を祈り上候。

(下村ひさ報)

○川俣女子青年會休養所

川俣基督敎女子青年會休養所設立の事は前號紙上にも記載せしが今其趣意書と規則を得たれば左に掲ぐ

川俣町に於きましては年若き婦人達の爲めに適當な休養の場所、高尙な娯樂の機關、また智能を啓發すべき相互交際の機會等が殆ど缺けて居る事を私共は殘念に存じます、殊に二六時中工場の裡で働らかるゝ工女方が正午一時間の休憩時間若しくは月二回の休業日等に

適當な休憩場所もない爲めに自然雜居して空談したり、街路を彷徨したり、其他往々低い趣味に趣いて知らず〳〵自個の品性を卑やしくすると云ふ事などもあるかと存じます、それて私共は恥かしい程な微力をも顧みず此度川俣町八反田（役場裏河向へ）に一休養所を新設致しましてこの『休養所』を以て高尚なる快樂を供する倶樂部、身心の休息所、智德を練磨する道場女子必要の手藝を授くる學校と致し度いので御座います、それで大方の諸兄姉が私共にはこの希望以外に何の私意もない事を御了解下さつて、此の事業の上に御同情を垂れ給はん事を御願致します。

大正三年六月　發企人　會長田丸よれ、谷崎うん、山野たみゑ

川俣基督敎女子青年會休養所規則　第一、本所の目的はキリスト敎主義に基き川俣町の青年女子に休息と娛樂を供し、兼て簡易なる學藝を授け、德性を涵養せしむるにあり、第二會員は朝七時より夕六時まで自由に本所に出入する事を得但し日の長短により變更する事あり、第三。會員は病氣の時は當休養所に於て靜養する事を得但し食費及雜費を要す、傳染性の諸病人は收容せず、第四、會員は會費として一ケ月金五錢を納むべし、第五、入會希望者は會長宛に入會願を差出すべし。第六本所は何時にても入會を許可す、但し場合により入會を拒絶し、若しくは會員を其名簿より除名する事あるべし。

○米國桑港女子青年會

當地女子青年會の幹事は兼てより交渉中の日本婦人候補者は何れも談まとまらず、此度ミセスハワスなる米國婦人を招く事に決定本月一日より就任され申候、同婦人は日本に十八年間以上も居られたる經驗に富める婦人にて日本語にもよく通じ居られ日本婦人の非常なる同情者に御座候（同婦人は大學出身者にてM、A、の學位あり、嘗て新渡戸孝夫様築地の學校に通學され居り候時代そこの數師なりし婦人に御座候同婦人の良人は先年は日本へ宣敎師として行かれしも目下は桑港移民局の通譯官を勤められ日本人のため絶へず同情と援助とを與へられ居る人に候夫人は移民局へ出入する好便宜を得へられ候まゝ新渡航の婦人を助ける働きなどに好都合にて目下英語の組の全責任をも持たれ活動を開始され居り候、同夫人を得たるは會のため誠に慶すべき事と存じ候。將來は成るべく同夫人の他に日本婦人の幹事一人を置く事必要と存じ候。

加州アセルモアの夏期修養會に出席致し候ものはミス、マシウ（東京幹事）と御一所に相成同所にてマシウ姉と青年會の爲め色々打ち合せ致し候、渡米者

に必要なる注意の點なども話し合ひ申候、横濱女子青年會にて新渡米婦人のため小冊子御配布の御計畫の由に候へば當方にて氣付きし要點等は參考に供し申す可く候。目下は戰爭にて數は少なくなり候へども今まで大概桑港に上陸する日本婦人（大多數は寫眞結婚の婦人）毎月平均六七十名に候、女子青年會の働きはこれ等新來の婦人になすべき事澤山に之れあるべく候、新來の婦人を援助し保護し適當なる方法に指導し行く事は非常なる傳道と存じ候、御地の女子青年會と益々密接なる關係をもつてこの仕事を成就致し度きものと存じ候。ミス、マシウは今日ロスアンゼルス地方より御歸桑にて候、明日は同氏のため領事官邸に於て沼野夫人がレセプションを催され女子青年會の關係の米國婦人及び日本婦人を百名程招待され申候、ミス、マシウは殆ど席の溫まる暇なきまで日本のため女子青年會事業のため御奔走相成り候、當地のものはもつと〳〵同氏のため盡したく存じ候に他の用事繁忙のため、思ふ萬分の一も出來ず殘念に存じ居り候、明日はミス、マシウ朝より御出の筈にて沼野夫人方へ御同伴致す筈に相成り居り候

消息

○青山女學院　十一月十四日より十六日迄創立四十年記念會を擧ぐ四十二名受洗す女學院女子青年會と女子手藝學校女子青年會は今回合併し之れを青山女學院青年會と名づく

○陶山すゑ子姉　は好友園の日曜學校を、又た木澤勝子姉は土曜日午前中幼稚園を應援さる

○女子英學塾受洗者　坂本壽子、駒澤みち子、小瀨川てつ子の三名は富士見町敎會に於て十一月八日受洗されたり。

○井深花子　協同傳道にて十一月中信州に出張さる。

○廣岡淺子　關西及中國協同傳道のため絕えず活動され居れり。

○三谷民子　信州並に靜岡縣下に於ける協同傳道に參加せらる。

○山田千代子　千葉縣協同傳道のため出張されたり。

○河井道子　横濱協同傳道を應援せらる

○高井まさの子　今回別府にて高島硏造氏と結婚。

○池田照子　今回吉田氏と結婚せられ香川縣下に住居。

○芳賀靜代子　十一月男子御分娩母子共に壯健の由

○澤田みや子　臺灣なる同夫人は十月二十七日男子御出產、母子共に健全

○岩崎智子　仙臺なる同夫人は十一月シユーネーダー博士より受洗。

○吉見孝子　永らく安藤坂寄宿舍に住居されし醫師なる同姉は今回淺草元吉町十五番地に開業さる。

○菅野田鶴子　都合上今回好友園を辭して東京麴町區飯田町に轉居せられ相變らず買物の取次を以つて一同の便利を圖らる。

○內田ふみ子　神戶女學院なる同姉は今回米國奬學金候補者に合格され近日渡米さるべし。

○ミス、レーガン　信州上田に赴き數日間滯在されたり。

○祐源トキ子　滋賀縣高等女學校に奉職中なる馬屋原妙子姉の同僚なる同姉は今回文部省中等敎員檢定試驗のため上京本部を訪問さる。

讀者便り

○實のれる稲を刈りいれ

弘前　岡本翠子

當地ははや綿入に羽織と申す次第、二三日中には降雪を見るべくうれしい様な、つらい様な心地いたし候寒くても主の御用の爲に働く身には大丈夫害ふこともなからうとの確信にて致し居り候、扨女子青年會を當弘前女學校に設立せんとて春頃より苦心致し漸く形丈けは出來候が昨今御惠みによりて少しづゝなりとも成長發達いたし參り候、最初より有名無實の會にならんことを恐れ居り候ひしが生徒には熱心に且忠實に祈禱會や仕事會にも出席いたしそれ〴〵分擔の責任を盡しくれ、誠にうれしく存じ居り候、正會員は誠に少なら御座候へどもいまだ十二十三の小供故に宗教の何たるかも解せざるもの多く候、さりながらかゝる小供を漸次導きゆき候事誠に〳〵愉快に御座候、かゝる小供は求道者より漸次洗禮志願者にすゝみ候様を見る時には何とも申されぬうれしさと感謝の念にあふれ申候、先日來青山女學院の古田とみ子先生御來弘に相成り當地青年女子の爲に色々御話しに相成り、當校にも御出でに相成り澤山の有益なる精神のこもれる御話しをなし下され、一同大いに益すること多く御座候ひき。一日先生は求道者及未だ求道をせざるものゝ爲に特に御話し下され候其折に我等信者の者は同時に別室に集り熱き祈りを捧げて彼等が今キリストを心の中に入れ申さん事を祈り申候、はたして神は我等の祈に答へ給ひしと覺え、忽ち二十名以上の求道者を得且つ六人の洗禮志願者を得誠に嬉しく感謝の外に言葉も御座なく候、彼れ等は第二日曜日には愈々神の御前に罪を告白いたす筈に御座候、誠や何時主は來りて實れる稲を刈りいれらるゝや計り難く私共はいつも備をなしてよき種を蒔かざるべからずとうなづかれ候、青年會は來る第一木曜日にはこれらの子女の爲に特に感謝の祈禱會を開く考へに御座候、何卒本部におかせられても發達する様にとくに御祈り下され度、願ひ上候、當校へ參りし以來いろ〳〵靈的修發をいたし居り候て御話し申上げたきこと山々有之候又いづれ後便にて申上ぐべく候、青年會の先生も弘前まで一度御出でになりて種々御話しをして下さらばいとうれしく存じ候が如何に候や御まち申上候。

○思はぬ折に主來り給ふ

大津　馬屋原妙子

御無沙汰ばかり申上げます中に早秋も半（なかば）すぎさり又クリスマスも近くなりました、私歸國致して祖母の看護をいたし其の後大津に歸りて間もなく私事十月中旬頃まで病院生活をいたしましたヂフテリヤで御座いました、然し其の間に赤十字社滋賀縣支部病院の分舍にをりました全く他と交通を禁じられました白きベットに毎日々々横はりながら色々ゆつくりと考へる事が出來ました事を感謝いたして居ります、色々病氣のために深き教訓を得ました、只喉をいためた丈だと思つて何の氣もなしに診察を受けますと傳染病との事其のまゝ家にはかへれず入院を命ぜられました、其の時今一度家に歸つてよく諸品を整理して來たい様な氣がしてくやしくてたまりませんでした、幸友人の堤姉が早速びつくりして飛んできて私の入院につき萬事世話をして下さいましたから安心いたしました、友達の親切を深く〳〵味ふ事が出來ました、又いつぞや聖書の組で伺つた馬太傳第二十五章の十人のをとめの譬を思ひ出さずには居られませんでした、嗚呼私は愚かなる少女であつたと思ひました、病院に入院したのは退院と云ふあてもあり

退院したらあれもこれも片づけて整然として今までの惡い事をとり返さうと思ひましたしかし病氣でなく思はぬ折に主來り給ひし時は何の心配もなくよろこびいさんて召さるゝ事が出來るかしら平常より氣をつけたいと思ひました、去る十二日には八幡のミセスウオーターハウスの所にまねかれて堤と堤の友達の祐源と申す人と私と都合三人參りました八幡教會の禮拜に出席いたし樂しき聖日を守りました、多賀樣は其の後御病氣は如何で御座いますか、新渡戸琴子樣から先日御手紙を頂きましたがあの方もすぐれなさらぬ由今年は病人の多い樣に思はれます、大津に來る時はいやでたまりませんでしたが神樣は私によき友二人を見つけて下さいましたので今は悲しみも樂しみも三人で分けて樂しく暮して居ります。扨十一月號の女子青年界誌上で拜見しますと河井先生には長岡女子師範學校や新潟高等女學校にても御講演の由當地にも何時か御出で下さいまして生徒に身の引きしまる樣な御話をきかして頂きましたならばと存じました先日東京で全國高等女學校長會議が御座いました時、如何にして女學生をして質實勤勞を勵む習慣を養ふべきかと云ふ問題が出ましたさうで御座います、當地などでも自發的に勉强する生徒は殆どなくみな受動的で御座います、しかし彼等は何物かを求めて居ります、宗教如きの修養談でもどれ程よろこんできく事で御座いませう今日もワットの齒の「希望と愛」と「生」の說明を補習科の生徒にいたしましたら一生懸命に聞いてくれましたベルがなりました後でも次の授業がないから今少しきかせて下さいと云ひました、彼等は精神上に飢えてをりますほんとに正々堂々とキリストを述べ傳へる日の來るのを先生方の仰せられた如く待ちのぞんでをります。

○手紙の内に雜誌十五部の代金

上海　中村玉子

天高く秋氣すが〳〵しき今日此頃先生方にはいかゞ御起居あそばされ候や御伺ひ申上候

神の御惠の下にいろ〳〵と神の御事業のため御働き遊ばさるゝ事と蔭ながら嬉び居り候、私共も相變らぬ御めぐみのもとに日々つとめ居り候間、御安心下され度願ひ上げ候、益々力を合せ此の上海にある多くの同胞のため盡し度きものと祈り居り候、先生方と共に親しく物語る事は出來ず候へどもいつも〳〵御祈り下さる事と心强くはげまされ居り候。御地の女子青年會の御事業如何に御發展に御座候や、當地は石川牧師御出で以來集會も日にまし盛んに相成り心より神に感謝しよろこび居り候、此の手紙の内雜誌十五部の代金爲替とし御送附申上候間御受取り下され度候。

○學校の冷たい職員室に一人感謝の祈

福山　高折加那

青島はとう〳〵おちましたその報知のあつた翌日の福山の賑やかさ小さな町のせまい小路は提燈で一ぱいで御座いました、東京でもさぞいろ〳〵の催しがあらうと思はれます、當地で陷落の號外を見ましたのは一昨日の正午すぎてした、其の號外には日付が御座いません、多分青島陷落の文字を餘程前からすつてあつた樣で御座いました、おまけに大きな〳〵一寸五分四方の字でかゝれてありました、提燈でも旗でも皆前から用意されてあつて早速行列が催されたわけで御座います、扨この度雜誌委員とか云ふ大した御役目を頂戴いたしまして誠に身にあまる光榮と存じます、それと同時にどうしたらこの重い〳〵おつとめがしおはされる事かとあやぶまずには居られませぬ。神樣に御

まかせして敎へて戴くより外にないとひたすら御祈りして居りますきつと一名でも多く女子靑年會に導き度いと願つて居ります私は自分の働らく範圍は福山だけの樣に感じて居りました其故非常にむづかしい事と思つて居りましたけれど日本中を相手としてすれば心强くなりました、今度の日曜日に靑年會館で女學生大會があるさうで御座います伺はれないで殘念に思ひます、昨日は坂本壽子の洗禮の目出度い日との事ほんとにうれしく存じました、相憎當直にて敎會にまゐられませんでしたが學校の冷たい職員室に一人感謝の祈をいたしました、感謝する事ばかりで勿體ない樣にも思ひますが、まだお願ひしなければならない事が山ほどもあります、今週の金曜日とかに植村先生が廣島からの御上京の時福山を御通りになるとか伺ひました停車場で御目にかゝれる事と喜んで待つて居ります、當地も協同傳道が行はれます、宮川先生、笹尾先生廣岡先生など御光來の由故御目にかゝれるかと思ふとうれしう御座います。

○日本全國で一番敎へにくい國

佐賀　早田雪江

私事七月の三十一日東京を去つて此の佐賀に參りました、佐賀には二つの敎會が有ります、日本キリスト敎會とルーテル敎會で御座います、私共は日本キリストの方に參つて居ります每日曜日に參ります人は多い時は十二三人で少ない時は五六人位で御座います、日曜學校は男女合せて七十名居ります、佐賀は日本全國で一番キリスト敎の敎へにくい國で御座いますとの事で、牧師さんや外國の方が御骨折遊ばしていらつしやいます。主人も實は米國や世界を廻つてまゐりましたが身體が疲勞致しまして一二年田園生活に身を委ねるつもりで居りますが其のかたはら敎會の英語のバイブルクラスを持つて居り中學生十五名位居ります、前に安藤坂の靑年會寄宿舍にて每日曜日梅澤先生や靑年會の諸先生方よりいろ〳〵の事を伺ひしことなつかしく存じて一筆かきました。

○林檎が無盡藏かと思はれます程

弘前　淺井はる子

北の國は追々寒くなつて參りました、昨今は每朝屋根の上に白い霜がうすく降りて居ります。岩木山はもう雪の冠を頂きました、今年は豐年でございましたから其兆の雪は澤山降るに違ひないと土地の人は云つて居ります、寒さは初めての年よりも翌年の方が反つて强く感ずるさうでございますから矢張り恐ろしがつて居ります。唯之れからの樂しみは赤くて美しい林檎が無盡藏かと思はれます程其生々した顏を果物店の店先きに並べて居る事で御座います扨弘前に參りましてから一年以上になりました、其間神樣の前に何をいたしたかと考へて見まして、、悲しい事には何もございません唯少し許り蒔きました種子がどうかいつか何所かで生へて出ますやうにと今はそれのみ祈つて居ります。爰に感謝に堪へぬ事は校長が私に聖書組を敎へる事を許可した事でございます、皆樣の祈を願ひます。

○知らずに學校へつきました

仙臺　横澤つぎ

十月三十日　學校まで一里を每日通ひますのでなか〳〵でございます、今朝は早くうちを出かけました、まだ薄暗いあの田舍道、農夫すら一人も通りません、その空氣のよい事靜かな事話にも成らぬ位のな

かを私は一人元氣よく歩いて通勤いたしました。二三日前に農夫が豆の取り入れをして居ましたがいつの間にか麥の種子を蒔きしものと見えて芽が出て居ます。其の變化のひどいのには驚きました。僅か二三日間にあの樣な一つの種子が青い草と成つて出て來ます。麥は地に落ちると神は人の知らぬうちに、ちやんと芽を出させなさいましたニコデモにキリストは風は何處から吹くかわからぬが其の音はきこゆると御仰せになりました。私共に神の働きたまふ力は見えませんが種子は麥となるを見るにつけ。神は人をもかく變へたまふと思へばうれしくて成りません、たゞ麥の如くに地に落ち己を捨てる勇氣がありませうか、人の言葉を恐れたり自分の身の事のみ餘り考へたりしてると、だめになるのでせう。あゝ自分にもう少し勇氣があつたらあれ丈の變化を神は私にもあたへたまふのではないかしらと思ひました。又人が生れがはるなどといふのもこの麥と同じでありますしこれを成し給ふものは神より外にはありません。目をあけて見れば凡ての事神の力を表して居て見る者をしてこの大なる力をほめたゝへでは居られなくします。過日上京の際富士見町の教會の洗禮式に列しもう一度自分も受けたいと思ひましたが今朝はこの願も聞き入れられし心地します。この自然の力にうたれて思はず「あゝ神よ」とそれにこの手を擴げて神の御手に取りつきたく成り其瞬間々々に新らたにされし心地がしました。此度こそは〳〵と幾度も新らたになつては駄目になるので羞かしくなります。斯くては神を輕んじ新らたに成るといふ事をも輕んずるのではないかと畏れ多くなつて來ました。今まで舍に居て凡て規則正しき生活をして居ましたが此度は家に入り不規則に成りがちです、が一つの事に怠けると凡てに怠ける樣に成ります志一つの事につとめると凡ての事が出來て來て不思議な位ひです。まして神に對して自分しの交通の事なんか怠ると凡てが駄目になる處かとんでもない事のみ起ります、かう考へると面白くなつて知らずに學校へつきました。

○偉大の力を思はずに居られません

岡山　多　賀　艷

今頃は多分神田で青年會大會の最中で多くの女學生の方が集られた事と存じます、例年東京で御手傳致しました事など思ひ起し一層會の事が思はれ心の內では一々會の順序を追ふて居ります、語られる先生方のお話又出席せる皆樣の上に力強き神の御導きのある樣に祈つて居ります、祈禱週もはや過ぎ去りました、一昨年より去年よりも今年と祈禱週に對する熱心と興味は益々加はります、人情國語少しも知る事なく唯地上に其の國あると傳へ聞きし國々のために眞心から祈る事が出來ます事何と云ふ美しい事で御座いませう。殊に戰時の今日も此の週のみは敵の爲にも味方の爲にも區別なく等しく神の御前につらなるものとして感謝し合ひ祈禱を捧ぐる此事基督の御精神に非ずして何ものが御座いませう、英學塾に居ります頃最初は隨分形式の事と思ひ祈りつゝも祈の効果を疑つて居りました、一年二年三年と祈禱の會に出席します內に實に言ひ知れぬ祈の味を覺えました去年祈禱表の祈禱の中に表れし事項が今年は感謝の項に表はれて居るのを見ますと實に祈禱の偉大なる力なるを思はずに居られません。特別に前々年よりかけて亞細亞の青年會の狀態が如何に變りしかと思ひます。今年は深く感謝を致ました。出來る丈多くの人が眞心から此の世界的祈禱に加られん事を祈ります。去年迄は講堂で多くの姉妹方と心を合して祈りましたが、今年はこの田舍の隅に唯つた獨りで毎日四時から六時迄の間に誰も居らぬ海邊にて靜な夕日が美しく波に映つてもすべて神の御業が夕方の榮光を現す折、せかるゝ事もなく妨げられせず心ゆく計り祈も

る事を得ました。此様な離れた處に唯だ一人小さいいやしい婢の祈神は聞き波し給はぬかとは思ひますが必ずみな様の祈と共に跗き上げ給ひし事と信じます。此度の長い思ひもかけぬ休みには種々と忙しい生活を致して居る頃見失つた善き事を味ひ得られます。決して神より給ふ試練ではなくて惠にみちた祝福だと感じます、今朝の富士見町の禮拜時間も海邊に咲き競ふ薑花の中で靜かに暮しました。健康は日ましに恢復されて又元の元氣に歸り働き度く思ふ様になりました。青年會のためにも先生方の爲にも祈つて居ります。加藤さんも紐育で鉢卷で御勉强とか益々私共の祈を要せらる事と思ひます。

○來年の卒業に間ひ合ひ皆大喜び

仙臺　原田ことち

當宮城女學校青年會も十月より販賣部をひらき出しました、雜誌が追々發展で私も嬉しく益々知人間に紹介する積てございます、十一月一日シウユネダ博士より岩崎智子夫人が御受洗になり歌子様郁子様の御喜は大相で御座います、郁子様は「如何しても私の卒業までに母さまを信者にするのだ」と申されて居ましたが來年の卒業に間に合ひ皆大喜びして居ります。

祈禱週中は毎日學校構内の色々の場所で守る事に成つて居ります。

○發行の日を一日千秋の思ひで

香川縣　吉田照子

私事いつも女子青年界發行の日を一日千秋の思ひで待つております、殊に此度は新らしき所に參りましたから知人とて一人もなく寂しく暮して居りましたので慰を受けました。當地は福音が傳はりましてから間が御座いませんので信者とて一人も御座いません漸く私共が參りまして講義所を設立したので御座います、傳道は困難な土地で御座います神の御力により此の町の人々が多く救はれん事を祈つて働いて居ります、何卒弱き私共のため御祈りの端に御加へ下さいます様願ひ上げます。

○思へば早や一とせの昔とは相成り

井街てる

毎々女子青年界御發送下されありがたく御禮申上げ候いつも御事業の御發展ならびに先生方の御健かなる御働きをも拜見いたし誠に心から感謝いたし候昨年思ひがけなくも河井先生に御面會致しいろ〳〵と有益なる御教へ拜聽いたし候こと思へばはや一とせの昔とは相成り今更ながら御なつかしくそれにつけても自分等の信仰の薄く少くも向上いたし申さず候は誠に口惜しくも殘念に存じ居り候何卒朝夕の御祈の御内にあはれなる婢の信仰の幾分づゝにても向上いたす様御祈り下されたく御願ひ申上げ候、扨　渡戸すじ子様は此春以來御夫君とも代り〳〵御病氣にて目下は御主人入院中御附添の爲病院に參られ申候、芳賀爵代様は此度男子御出産同じく病院にて盡きせぬ御悦のため一層々々御神の御惠を感謝しつゝ之あり、澤田みや子様は去月二十七日これも男子御出産にて母子共頗る御健全に渡らせられ候。

○會友申込（本部報告）

（維持）佐柳千代子
（普通）久富壽美子

○會友會費領收（本部報告）

金壹圓　久富美　澤田みや　井街てる

金貳圓　石塚忍子
金拾圓　佐柳千代子　河井道子
ミセス、クリースン

○雜誌『女子靑年界』代金領收

金七拾錢

古谷さえ（自大正三年十一月至同四年十月）　横澤つぎ（自大正三年九月至同四年八月）
佐藤かつ（自大正三年十月至同四年九月）　井口やめ（自大正三年四月至同四年三月）
後藤きん（自大正三年十一月至同四年十月）　瓜生ふさ（自大正三年十一月至同四年十月）
太田貞子（自大正三年十一月至同四年十月）　上野梅香（自大正三年九月至同四年八月）
關　鄕枝（自大正三年十月至同四年九月）　上野さと（自大正三年一月至同年十二月）
今井光子（自大正三年一月至同年十二月）　津田よし（自大正三年十一月至同四年十月）
吉田松代（自大正三年十一月至同四年十月）　鳥居花子（自大正三年十一月至同四年十月）
佐藤春海（自大正三年九月至同四年八月）　高津久子（自大正三年四月至同四年三月）
渡邊ふみ（自大正三年十一月至同四年十月）　石川てい（自大正三年九月至同四年八月）
河村ひさ（自大正三年九月至同四年八月）　松永とも（自大正三年九月至同四年八月）
内倉くら（自大正三年五月至同四年四月）　高山たか（自大正三年五月至同四年四月）
萬代とみ（自大正三年十一月至同四年十月）　堀尾禮子（自大正三年一月至同年十二月）
本田春海（自大正三年十月至同四年九月）　遠藤みね（自大正三年十月至同四年九月）
堀江文子（自大正三年十二月至同四年十一月）　龜井こと（自大正三年十二月至同四年十一月）

内村きわ（自大正三年十月至同四年九月）　宇都宮こと（自大正三年十月至同四年九月）
加古いう（自大正三年十月至同四年九月）　山野井まよ（自大正三年九月至同四年八月）
堀　千惠子（自大正三年十月至同四年九月）　富永かづよ（自大正三年十月至同四年九月）
末永とき（自大正三年十月至同四年九月）　德江亥之助（自大正三年三月至同四年二月）
松本小花（自大正三年十月至同四年九月）　宮前右太郎（自大正三年三月至同四年二月）
齋藤峯子（自大正三年一月至同年十二月）　福島喜代（自大正三年十一月至同四年十月）
青山女學院青年會（自大正三年十月至同四年九月）　神田いね

金壹圓四拾錢

根岸こう（自大正三年三月至同五年二月）　矢野千代（自大正三年十一月至同四年十月二部宛）

壹圓五拾錢（大正三年十月號十五部代）　中村玉子
金壹圓（自大正三年六月至同四年二月）　吉田晴江
金參拾五錢（自大正三年十月至同四年二月）　菅野文子
金五圓六拾錢（大正三年十月號八十部代）　共立女學校青年會
金貳拾壹錢（自大正三年十月至同年十二月）　内山やす　手塚かつ
小林きみ　宮田とよ　玉置のぶ
金四拾貳錢（自大正三年十月至同四年三月）　岡林文枝　石川ゑみ
橋本ゆき　高野みつゑ
金拾四錢（大正三年十月號二部代）　及川なほ
金貳拾錢（大正三年九月及十月號分）　伊後園子

日本基督教女子青年會支部及寄宿舍其他位置

東京基督教女子青年會	東京市麴町區三番町四一
廣島女學校青年會	廣島市上流川町
同志社女學校青年會	京都市上京區今出川通
プール女學校青年會	大阪市西區川口町一二
ウヰルミナ女學校青年會	大阪市東區玉造
札幌女子青年會	札幌區北四條北星女學校內
宮城女學校青年會	仙臺市東三番町
クリスチアン女學校青年會	宇都宮市二條町七二
フエリス女學校青年會	横濱市山手町一七八
共立女學校青年會	横濱市山手町二一二
女子英學塾青年會	東京市麴町區五番町一六
女子學院青年會	東京市麴町區上二番町三三
青山女學院青年會	東京市青山南町七ノ一
女子傳道學校青年會	東京市小石川區指ケ谷町八四
神戸女學院青年會	神戸市山本通四丁目
金城女學校青年會	名古屋市東區白壁町四丁目
盛岡女子青年會	盛岡市内丸タピング方
徳島女子青年會	徳島市富田浦仲町ミスリツン方
横濱女子青年會	横濱市本町五一
捜眞女學校青年會	神奈川一本松
第一寄宿舍	東京市牛込區納戸町四五
第二寄宿舍	東京市小石川區水道町（安藤坂）
幼稚園	東京市小石川區金富町五二
旅行者の友事務所	東京市本郷湯島

National Committee

Headquarters. 12 Tamachi Sanchome, Ushigome, Tokyo

Mrs. Hana Ibuka, Chairman
Dr. Kei Okami, Vice-Chairman
Miss Tami Mitani, Secretary
Dr. Tomo Inouye, Treasurer
Miss Michi Kawai,
Active Member World's Committee

Resident Members	Non-Resident Members
Miss Ume Tsuda	Madame Asa Hirooka, Osaka
Miss A. B. West	Mrs. Koito Saiki, Kyoto
Miss Uta Suzuki	Miss M. F. Denton, Kyoto
Miss Kita Hasegawa	Miss Michi Matsuda, Kyoto
Miss Sarah Ellis	Miss Yoshi Kajiro, Okayama
Miss Chiyo Yamada	Miss K. Tristram, Osaka
Mrs. E. W. Clement	Miss Susan Searle, Kobe

Secretaries

Miss Michi Kawai, National
Miss A. C. Macdonald, National,
Miss Ruth Ragan, National Office
Miss Margaret Matthew, on Furlough
Miss G. R. Watney, Acting General, Tokyo
Miss Mary Page, Acting Associate, Tokyo
Miss M. Baker General, Yokohama

本誌定價

一部（郵共）	金七錢
一ケ年分	金七拾錢
海外	金拾壹錢
壹圓	金廿四錢

廣告料

一頁	金六圓
半頁	金三圓五十錢
四分ノ一	金貳圓
一行	金貳拾錢

大正三年十二月四日印刷納本
大正三年十二月七日發行

發行所　東京市牛込區田町三丁目十二番地　日本基督教女子青年會
編輯兼發行人　東京市牛込區田町三丁目十二番地　河井道子
印刷人　東京市芝區櫻田和泉町七番地　鈴木吉次郎
印刷所　東京市芝區櫻田和泉町七番地　三成舍

東京 神學社教頭

柏井園著

基督と人生

金一圓二十錢

小包送料八錢

著者の序に曰く「人生の經驗一歩を進むれば即更に多く基督を知る機會にして基督を知るは精神的王國の地圖に於て我立てる地點を知る所以也」と此見地より基督と人生の交渉點を明にし更に之を實驗せる哲人の一生を描きたる者本書即ち是れなり。人生の光を求むる人々は必らず一讀せられよ。

浮田博士著

●社會と人生

定價壹圓六拾錢 送料金拾貳錢

安部磯雄著

●婦人の理想

上製壹圓貳拾錢 並製九拾錢 送料金八錢

松浦政泰著

●少女と花嫁と主婦

定價金八拾五錢 送料金拾貳錢

小松武治編

●沙翁史劇物語

金壹圓廿錢 送料八錢

松浦政泰編

●代表的世界文學物語

金八拾錢 送料八錢

笹木幸子著

●家庭料理献立集

金壹圓八拾錢 送料拾貳錢

發兌 東京市小石川區櫻木町 東京振替一四四八四番 北文館

女子青年界第拾壹卷第十一號

大正三年十二月四日印刷納本　大正三年十二月七日發行　明治卅七年九月七日第三種郵便物認可

EUTHYMOL COLD CREAM

科學的に研究されたる
皮膚保護料
ユーサイモールコールドクリーム

所謂化粧クリーム中の化粧クリームにして之を用ゆるも脂膩の感なく垢脂を除去し曝斑(ヒヤケ)を豫防し且丘疹(ニキビ)の發生を妨げ能く皮膚を淸白且滑澤ならしめ最も白粉下に適す

定價　壹個金六拾五錢

發賣元　東京市日本橋區室町三丁目　三共株式會社

SUGAR COATED TABLETS CASCARA

常習便秘に最も卓効ある
緩和下劑
カスカラ糖衣錠

本品は頗る緩和に腸の蠕動を催進し決して小骨盤腔の充血を起す等のことなく服用者は六—十時稀には二十四時の後普通の爽快なる便通あるを特色とす故に姙婦及月經中の婦女と雖も服用して害なく又之を連用するも習慣を作さゝるを以て最も常習性便秘に適應す

用量　一回二錠宛一日三回又は一回三—六錠を空腹時又は臨臥時に服用す

定價　百錠金參拾貳錢、五百錠金壹圓卅五錢、千錠金貳圓四拾錢

發賣元　東京市日本橋區室町三丁目　三共株式會社

復刻版 女子青年界 第5巻
1992年7月10日発行
本体価格 22,000円

発行者 船橋 治
発行所 不二出版
東京都文京区向丘1-2-12
〒113 ☎03(3812)4433
印刷所 三進社
製本所 青木製本所
中性紙使用
乱丁・落丁はお取り替えいたします。